

# 国有林の地域別の森林計画書

(太田川森林計画区)

計画期間 { 自 平成31年 4月 1日  
至 平成41年 3月 31日 }

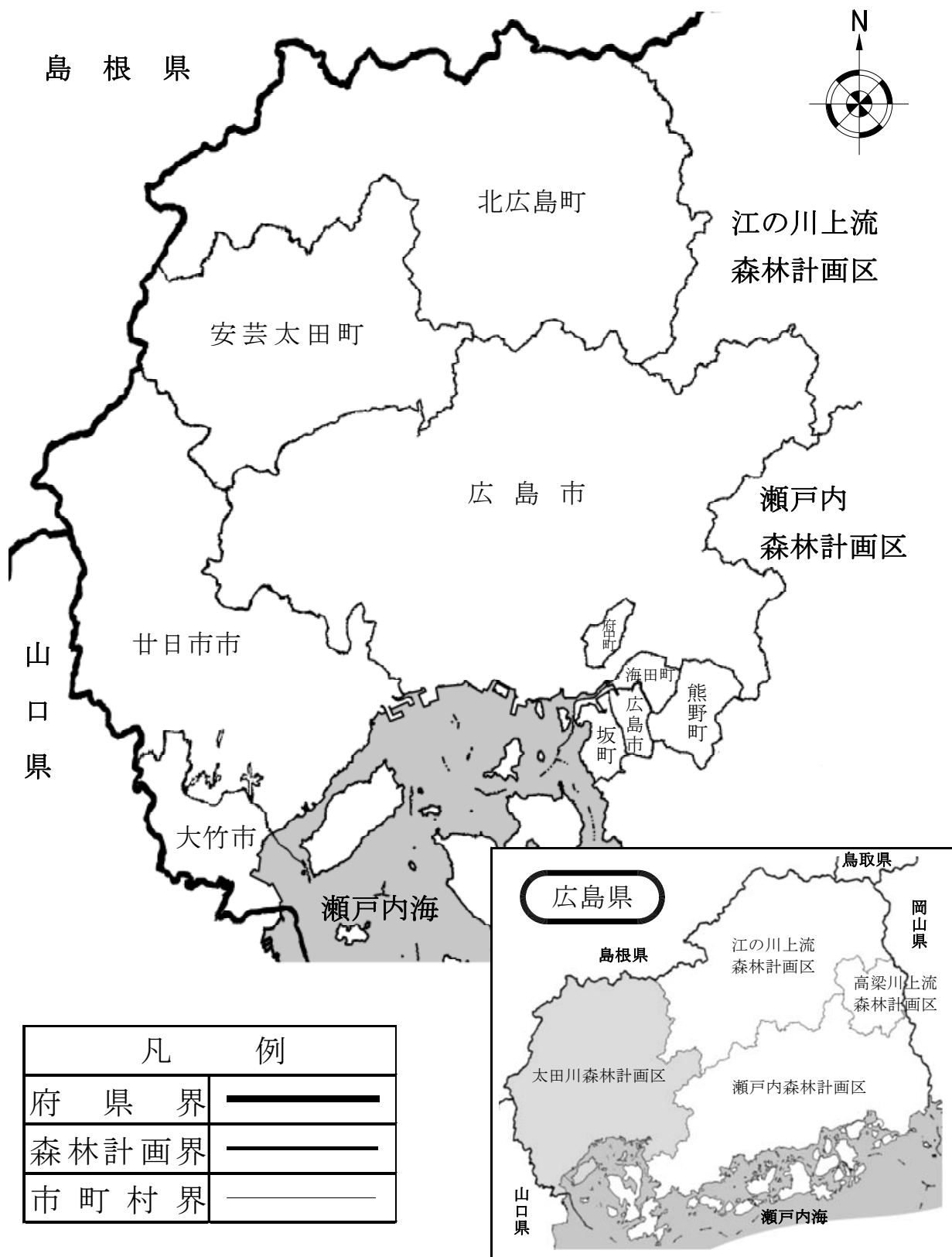
近畿中国森林管理局

# ま え が き

本計画は、森林法第7条の2の規定に基づき、全国森林計画に即して、太田川森林計画区のうち林野庁所管の国有林について樹立した平成31年4月1日から平成41年3月31日までの10年間を計画期間とする「国有林の地域別の森林計画」です。

この用紙は間伐材を活用しています。

# 太田川森林計画区的位置図



凡 例	
府 県 界	———
森林計画界	———
市 町 村 界	———

# 担当者の職名及び氏名並びに樹立に従事した期間

## 1 担当者の職名及び氏名

計 画 課	課	長	里 見 昌 記
	流域管理指導官		元 山 英 樹
	課 長 補 佐		伊 藤 公 夫
	計 画 調 整 官		高 井 和 巳
	経 営 計 画 官		椿 昇 一 郎

## 2 樹立に従事した期間

自 平成30年 4月 1日

至 平成30年12月31日

# 目 次

<b>I 計画の大綱</b> .....	1
<b>1 森林計画区の概況</b> .....	1
(1) 自然的条件 .....	1
(2) 社会経済的背景 .....	2
(3) 森林計画区における国有林の位置付け .....	2
<b>2 前計画の実行結果の概要及びその評価</b> .....	3
(1) 伐採立木材積 .....	3
(2) 人工造林及び天然更新別の造林面積 .....	3
(3) 林道の開設又は拡張の数量 .....	3
(4) 治山事業 .....	4
<b>3 計画樹立に当たっての基本的考え方</b> .....	4
<b>II 計画事項</b> .....	5
<b>第1 計画の対象とする森林の区域</b> .....	5
<b>第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項</b> .....	6
<b>1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項</b> .....	6
(1) 森林の整備及び保全の目標 .....	6
(2) 森林の整備及び保全の基本方針 .....	6
(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等 .....	9
<b>2 その他必要な事項</b> .....	9
<b>第3 森林の整備に関する事項</b> .....	10
<b>1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）</b> .....	10
(1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法 .....	10
(2) 立木の標準伐期齢 .....	12
(3) その他必要な事項 .....	12
<b>2 造林に関する事項</b> .....	13
(1) 人工造林に関する基本的事項 .....	13
(2) 天然更新に関する基本的事項 .....	13
(3) その他必要な事項 .....	14

<b>3 間伐及び保育に関する事項</b>	14
(1) 間伐の標準的な方法	14
(2) 保育の標準的な方法	15
(3) その他必要な事項	16
<b>4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項</b>	16
(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における森林施業の方法	16
(2) その他必要な事項	17
<b>5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項</b>	17
(1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方	17
(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方	19
(3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法	19
(4) その他必要な事項	19
<b>6 森林施業の合理化に関する事項</b>	19
(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	19
(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	20
(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	20
(4) その他必要な事項	21
<b>第4 森林の保全に関する事項</b>	22
<b>1 森林の土地の保全に関する事項</b>	22
(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区	22
(2) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法	22
(3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	22
(4) その他必要な事項	23
<b>2 保安施設に関する事項</b>	23
(1) 保安林の整備に関する事項	23
(2) 保安施設地区に関する事項	23
(3) 治山事業に関する事項	23
(4) その他必要な事項	24

<b>3 鳥獣害の防止に関する事項</b>	24
(1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止方針	24
(2) その他必要な事項	24
<b>4 森林病虫害の駆除及び予防その他の森林の保護に関する事項</b>	24
(1) 森林病虫害等の被害対策の方針	24
(2) 鳥獣害対策の方針（3に掲げる事項を除く。）	25
(3) 林野火災の予防の方針	25
(4) その他必要な事項	25
<b>第5 計画量等</b>	26
<b>1 伐採立木材積</b>	26
<b>2 間伐面積</b>	26
<b>3 人工造林及び天然更新別の造林面積</b>	26
<b>4 林道の開設又は拡張に関する計画</b>	27
<b>5 保安林整備及び治山事業に関する計画</b>	27
(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等	27
(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等	28
(3) 実施すべき治山事業の数量	28
<b>第6 その他必要な事項</b>	29
○ 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法	29
(1) 法令により施業について制限を受けている森林	29
(2) 制限林の施業方法	31
<b>別表1 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法</b>	33
<b>1 水源の涵養<sup>かん</sup>の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林</b>	33
<b>2 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林</b>	33
(1) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	33
(2) 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
(3) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	34
<b>別表2 鳥獣害防止森林区域</b>	34

## (附) 参 考 資 料

<b>1 森林計画区の概要</b> .....	37
(1) 市町村別土地面積及び森林面積 .....	37
(2) 地況 .....	37
(3) 土地利用の現況 .....	40
(4) 産業別生産額 .....	40
(5) 産業別就業者数 .....	41
<b>2 森林の現況（国有林）</b> .....	42
(1) 齢級別森林資源表 .....	42
(2) 制限林普通林別森林資源表 .....	47
(3) 市町村別森林資源表 .....	48
(4) 樹種別材積表 .....	50
(5) 荒廃地等の面積 .....	50
(6) 森林の被害 .....	50
(7) 防火線等の整備状況 .....	50
<b>3 林業の動向</b> .....	51
(1) 保有山林規模別林家数 .....	51
(2) 森林経営計画の認定状況 .....	51
(3) 森林組合及び生産森林組合の現況 .....	52
(4) 林業事業体の現況 .....	55
(5) 林業労働力の概況 .....	55
(6) 林業機械化の概況 .....	56
(7) 作業路網等の整備の概況 .....	57
(8) 国有林と関係のある私有林林道の開設計画 .....	57
<b>4 前期計画の実行状況</b> .....	58
(1) 伐採立木材積 .....	58
(2) 人工造林・天然更新別面積 .....	58
(3) 林道の開設又は拡張の数量 .....	58
(4) 保安施設の数量 .....	59
<b>5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）</b> .....	60
(1) 森林より森林以外への異動 .....	60
(2) 森林以外より森林への異動 .....	60
<b>6 森林資源の推移</b> .....	61
(1) 分期別伐採立木材積等 .....	61
(2) 分期別期首資源表 .....	62



# I 計画の大綱

## 1 森林計画区の概況

### (1) 自然的条件

#### ア 位置及び面積

太田川森林計画区は、芦田・佐波川広域流域に属し、広島県の西部に位置しており、西は山口県、北は島根県、東は江の川上流森林計画区及び瀬戸内森林計画区に接し、南は瀬戸内海に面しています。

本計画区に包括される行政区域は、広島市をはじめとする3市6町です。

国有林(国有林野の管理経営に関する法律第2条に定める森林及び公有林野等官行造林地(計画対象外森林を除く。)以下同じ。)は、中国山地沿いに大きな団地があるほか、各所の点在しており、その面積は15千haです。

#### イ 地 勢

西部から北部にかけては、広島県最高峰の恐羅漢山(1,346m)をはじめ、十方山(1,328m)、阿佐山(1,218m)などの1,000m級の山々が連なっています。また、東部には、白木山(889m)などの800~1,000m級の山々が瀬戸内海に面して連なっています。

河川は、中国山地の高峰冠山に源を發し、大小72河川の支流を集め、広島湾に注ぐ一級河川の太田川、廿日市市佐伯町飯山に源を發し、広島、山口県境を南流し瀬戸内海に注ぐ小瀬川などがあります。

また、瀬戸内海には、世界文化遺産に登録されている厳島神社を擁する厳島をはじめ、似島、金輪島、阿多田島などが点在しています。

#### ウ 地質及び土壌

地質は、花崗岩の分布率が全体の51.8%を占め、南部及び島しょ部を中心に広く分布しています。また、地表面から数m程度の深さまで風化によって「マサ土」と呼ばれる砂質土になっている箇所が多くあります。

北部一帯には流紋岩類が分布し、一部、廿日市市、安芸太田町(旧筒賀村)などに中・古生層が分布しています。

土壌は、生産力に富む適潤性褐色森林土が北部を中心に広い範囲に分布しており、全体の62.2%を占めています。南部沿岸部及び島しょ部には生産力のやや劣る未熟土が分布しており、一部、廿日市市、広島市及び北広島町(旧豊平町)などには乾性褐色森林土が分布しています。

#### エ 気 候

平成29年の気候は、南部(観測所:広島)で年平均気温16.3℃、年間降水量1,620mmと温暖で降水量が少なく、日照時間が2,000時間を超える地域もあり、瀬戸内海式気候に属します。

北部（観測所：加計）は、年平均気温13.2℃、年間降水量1,833mmと、冷涼で降水量、及び冬季の積雪も極めて多く、一部市町は豪雪地帯に指定されており、日本海側気候に属します(平成29年気象庁資料)。

## (2) 社会経済的背景

### ア 土地利用の状況

森林面積は196千haで森林率は77%を占めており、広島県全体の72%と比べて少し高い割合となっています（広島県林務関係行政資料（平成29年8月））。

### イ 人口及び産業の状況

人口は、147.8万人で広島県総人口の52%となっています。

就業者数は67.9万人で産業別内訳は第1次産業が1%（8.3千人のうち林業就業者数432人）、第2次産業が24%、第3次産業が75%となっています（平成27年国勢調査）。

### ウ 交通の状況

道路網は、瀬戸内海側にJR山陽新幹線、JR山陽本線、JR呉線、JR可部線、南北にJR芸備線が走っています。

自動車道は、中国縦貫自動車道、山陽自動車道、広島自動車道、浜田自動車道、国道2号、31号、54号、183号、186号、191号、261号、433号、434号、487号、488号が縦横に走り、これらを主要地方道、一般県道などが補完しています。

## (3) 森林計画区における国有林の位置付け

国有林の面積は、15千haで計画区の森林面積196千haの8%を占めています。

北部山間地域の国有林は、雨量の多い気候や、急峻な地形が多いことから、水源涵養<sup>かん</sup>や山地災害防止機能等の公益的機能の発揮が期待されています。また、南部沿岸地域の国有林は、政令指定都市の広島市をはじめ人工集中地にあり、国土保全機能等の公益的機能の高度発揮に寄与するとともに、保健・文化・森林レクリエーションの利用の場としても多くの人に利用されています。

## 2 前計画の実行結果の概要及びその評価

### (1) 伐採立木材積

主伐は、官行造林及び分収林の契約延長等により伐採を見送ったことから計画を下回る実績となりました。

間伐は、実行段階で現地を精査し、優先度の高い箇所から実行したことにより計画を下回る実績となりました。

単位：材積 m<sup>3</sup>、実行歩合 %、面積 ha

区分	伐 採 立 木 材 積								
	計 画			実 行			実 行 歩 合		
	主 伐	間 伐	総 数	主 伐	間 伐	総 数	主伐	間伐	総数
総数		<2, 257>	(15, 000)		<525>	(2, 676)		<23>	(18)
	105, 794	260, 700	366, 494	2, 933	62, 846	65, 779	3	24	18

注：1 計画欄は、前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成26～29年度実績と平成30年度見込量の合計です。

3 <>は間伐面積

4 ( )は、地域管理経営計画等において定めるあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量で外書。

### (2) 人工造林及び天然更新別の造林面積

人工造林は、分収林等の主伐を見送ったことにより計画を下回る実績となりました。

単位：面積 ha、実行歩合 %

総 数			人 工 造 林			天 然 更 新		
計 画	実 行	実 行 歩 合	計 画	実 行	実 行 歩 合	計 画	実 行	実 行 歩 合
99	4	4	99	4	4	—	—	—

注：1 計画欄は、前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成26～29年度実績と平成30年度見込量の合計です。

3 四捨五入により総数と内訳が合わないことがあります。

### (3) 林道の開設又は拡張の数量

開設は、森林施業の計画に応じて優先度を勘案し実施した結果、計画を下回る実績となりました。

拡張は、集中豪雨等による被災箇所について緊急性を考慮して実施した結果、計画を上回る実績となりました。

単位：延長km、箇所数 箇所、実行歩合 %

区 分	開 設 延 長			拡 張 箇 所 数		
	計 画	実 行	実 行 歩 合	計 画	実 行	実 行 歩 合
基幹路網	6. 0	1. 4	23	—	17	皆増
うち林業専用道	6. 0	1. 4	23	—	—	—

注：1 計画欄は、前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成26～29年度実績と平成30年度見込量の合計です。

3 基幹路網とは、林道及び林業専用道を指します。

#### (4) 治山事業

保全施設は、自然災害の発生に応じて優先度を勘案した結果、計画を下回る実績となりました。

単位：保全施設 地区、実行歩合 %

区 分	計 画	実 行	実 行 歩 合
保 全 施 設	20	1	5

注：1 計画欄は、前半5ヶ年に相当する数値です。

2 実行欄は、平成26～29年度実績と平成30年度見込量の合計です。

### 3 計画樹立に当たっての基本的考え方

本計画区の国有林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びついています。

また、本計画区の国有林は、戦後に積極的に造成された人工林を主体に蓄積が年々増加しており、多くの人工林が利用期を迎えています。

これらの森林資源を有効に利用しながら、計画的に再造成し、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るためには、より効率的かつ効果的な森林の整備及び保全を進めていく必要があります。こうした情勢を踏まえ、森林の現況、自然条件及び社会的条件、国民のニーズ等に応じて、施業方法を適切に選択し、計画的に森林の整備及び保全を進めながら、望ましい森林の姿を目指します。

その際、全ての森林が多種多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件等に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林をバランス良く配置するよう努めます。

この計画は、全国森林計画に即して、本計画区の国有林について、このような考え方に基つき自然的条件、社会的経済的条件、地域の動向、前計画の実行結果やその評価等を踏まえつつ、森林の整備及び保全の目標、森林施業、林道の開設、森林の土地の保全、保安施設等に関する事項を明らかにした国有林の地域別の森林計画です。

計画の実行に当たっては、民有林との連携のもと効率的な実行の確保が図られるよう努めます。

## II 計画事項

### 第1 計画の対象とする森林の区域

○市町村別面積

単位：ha

区 分		総 数	国有林野	公有林野等 官行造林地
総 数		15,070.58	13,935.92	1,134.66
市 町 村 別 内 訳	広 島 市	4,874.63	4,230.01	644.62
	廿 日 市 市	6,715.81	6,715.81	—
	海 田 町	118.72	66.14	52.58
	熊 野 町	197.01	197.01	—
	坂 町	46.93	46.93	—
	安芸太田町	2,103.55	2,103.55	—
	北 広 島 町	1,013.93	576.47	437.46

注：1 本表の面積は平成30年3月31日現在の数値です。

2 本計画の対象とする森林の区域は、森林計画図において表示する区域内の国有林です。

3 森林計画図の縦覧場所

大阪府大阪市北区天満橋 1-8-75

近畿中国森林管理局

広島県広島市中区吉島東 3-2-51

広島森林管理署

## 第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

### 1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

#### (1) 森林の整備及び保全の目標

##### ア 水源涵養機能

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林

##### イ 山地災害防止機能／土壌保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林

##### ウ 快適環境形成機能

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林

##### エ 保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育的活動に適した施設が整備されている森林

##### オ 文化機能

史跡、名勝等と一体となって、潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林

##### カ 生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林

##### キ 木材等生産機能

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林

#### (2) 森林の整備及び保全の基本方針

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化や急速な少子高齢化と人口減少等の社会的情勢の変化に加え、資源の循環利用を通じた花粉発生源対策の推進の必要性も考慮しつつ、適正な森林施業の面的な実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進します。

また、森林の状況を適確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や、リモートセンシング及び森林GISの効果的な活用を図ります。

具体的には、森林の諸機能が発揮される場である「流域」を基本的な単位として、森林の有する水源涵養<sup>かん</sup>、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全及び木材等生産の各機能を高度に発揮するための適切な森林施業の面的な実施、林道等の路網の整備、保安林制度の適切な運用、治山施設の整備、森林病害虫や野生鳥獣害対策、などの森林の保護、花粉発生源対策に関する取組を推進します。

森林の有する機能ごとの森林整備及び保全の基本方針は次のとおりです。

#### ア 水源涵養機能<sup>かん</sup>

ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源<sup>かん</sup>地周辺の森林並びに地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能<sup>かん</sup>の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を行うとともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ります。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進します。

ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養機能<sup>かん</sup>が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を行います。

#### イ 山地災害防止機能／土壤保全機能

山腹崩壊等により人命や人家等施設に被害を及ぼすおそれがある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊、その他山地災害の防備を図る必要のある森林、気象条件や地形条件等からみて飛砂、潮害、津波等の災害発生の危険度の高い森林は、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進します。また、自然条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進します。

集落等に近接する山地災害の発生の危険性の高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設を設置します。

また、災害発生の危険度の高い海岸林の適切な管理、保全、再生等を行います。

#### ウ 快適環境形成機能

国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を実施します。

また、快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を行います。

#### エ 保健・レクリエーション機能

観光的に魅力ある高原、溪谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全します。

具体的には、国民に憩いの場や学びの場、都市住民と山村との交流の場などを提供する観点から、自然条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を行います。

また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を行います。

#### オ 文化機能

世界文化遺産、国宝、重要文化財、史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を行います。

具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を行います。

また、風致のための保安林の指定やその適切な管理を行います。

#### カ 生物多様性保全機能

全ての森林が多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方にに基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指します。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全します。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮します。

#### キ 木材等生産機能

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備します。

具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を行います。また、将来にわたり育成単層林として維持する森林では、主伐後の植栽による確実な更新を行います。この場合、施業の集団化や機械化を通じた



効率的な整備を推進することを基本とします。

### (3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

○計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態

単位 面積：ha 蓄積：m<sup>3</sup>/ha

区 分		現 況	計画期末
面 積	育成単層林	8,511	7,471
	育成複層林	5	85
	天然生林	6,078	6,078
森 林 蓄 積		212	229

注：1 育成単層林

森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為※により成立させ維持される森林。例えば、植栽によるスギ・ヒノキ等からなる森林。

2 育成複層林

森林を構成する林木を択伐等により伐採し、複数の樹冠層※を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。例えば、針葉樹を上木とし、広葉樹を下木とする森林。

3 天然生林

主として天然力※を活用することにより成立させ維持される森林（未立木地、竹林等を含む。）。例えば、天然更新によるシイ・カシ・ブナ・コメツガ等からなる森林。

※「人為」とは、目的に応じ、植栽、更新補助(天然下種更新のための地表のかきおこし・刈払い等)、芽かき、下刈り、除伐等の保育及び間伐等の作業を行うこと。「複数の樹冠層」とは、林齢や樹種の違いから樹木の高さが異なることにより生ずるもの。「天然力」とは、自然に散布された種子が発芽・生育すること。

## 2 その他必要な事項

特に記すべき事項はありません。

### 第3 森林の整備に関する事項

#### 1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

##### (1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

森林の有する多面的な機能の維持増進を図るために、立地条件、地域における既往の施業体系、樹種の特性、木材需要構造、森林の構成等を勘案し、立木の伐採の標準的な方法は次のとおりとします。

##### ア 皆伐を行う森林

###### (ア) 皆伐新植を行う森林

###### a 対象森林

皆伐新植は、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術、森林被害の発生状況等からみて、人工林の造成が確実であり、かつ人工林施業による森林生産力の増大が十分期待できる森林について行います。

また、気候、地形、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて複層林の造成が確実であり、かつ複層林の造成による多様な木材の生産が期待される林分で、林道の整備状況等からみて複層林施業を行うことが適切な林分については当該施業を行います。

###### b 生産目標別の主伐の時期

皆伐を行う人工林の主伐は、樹種ごとの生産目標に対応する径級に達した時期に行います。本計画区における樹種別、生産目標別の主伐時期の目安は、次のとおりとします。

地 区	樹 種	標 準 的 な 施 業 体 系			主伐時期 の 目 安 (年)
		生 産 目 標	仕 立 方 法	期待径級(cm)	
全 域	ス ギ	一般建築材	中 仕 立	20～24	40
	ヒノキ	一般建築材	中 仕 立	18～22	50
		心持柱材	密 仕 立	18～22	50
	マ ツ	一 般 材	中 仕 立	30	80

注：期待径級は、主伐の目安の林齢の胸高直径である。

###### c 伐区の形状その他立木の伐採に関する留意事項

###### (a) 国有林（公有林野等官行造林地を除く。）

〈1〉 1箇所当たりの伐採面積は、制限林のうち保安林及び自然公園第3種特別地域は、おおむね5ha以下（ただし、1伐採箇所の面積の限度が5ha以下で指定されている保安林等はその制限の範囲内とします。保安林における伐採年度当

たりの皆伐面積の限度は、保安林単位区域ごとの総年伐面積の範囲内とします。)。その他の制限林はその制限の範囲内とし、制限林以外の森林は、おおむね20ha以下としますが、特に水源涵養機能、山地災害防止／土壤保全機能の維持増進を図る森林は、1箇所当たりの伐採面積の縮小に配慮します。ただし、分収造林等の契約に基づく森林は、契約内容によることとします(法令等の制限がある場合は、その制限の範囲内とします。)

<2> 伐採箇所は、自然的条件及び公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、伐採面積の規模、伐採箇所の分散に配慮するとともに新生林分の保護、寒風害等の各種被害の防止及び風致の維持等のため、必要な尾根、斜面中腹、溪流沿い、主要道沿線等に保護樹帯を積極的に設置します。特に水源涵養機能、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林については、天然生広葉樹の育成等による針広混交林への誘導や林分のモザイク的配置を考慮します。また新生林分に接続して皆伐を行う場合は、原則として隣接の新生林分がおおむねうっ閉した後に行います。

なお、皆伐新植を予定する林分において、利用径級に達しない小径木の有用樹種で形質の優れているものが生育している場合は、伐採せずに残すように努めます。

<3> 人工造林による育成複層林施業を行う場合は、効率的に施業を実施するため、帯状又は群状伐採を基本としますが、立地条件、下層木の生育状況等の現地の実態に応じて単木伐採も行います。

複層伐(更新伐)は原則としてスギ、ヒノキともおおむね60年生の時期に行い、複層伐(終伐)はおおむね120年生の時期に行います。

複層伐(更新伐)の伐採率は、上木の50%を基準とします。また、更新伐を実施する10年程度前までに間伐を実施し、必要な密度管理を行います。

<4> 積雪量100～250cmの多雪地帯では、傾斜の交換点、局所的急峻地、岩石地、風衝地、雪崩箇所、崩壊地の周辺、雪庇発生箇所の立木は伐採せずに残しますが、利用価値の高いものは択伐します。

<5> 上記多雪地帯で、積雪の葡行力による植栽木の引き抜けや倒伏等の被害が予想される箇所においては、必要に応じて防雪帯を設けます。

防雪帯は、斜面長40m以上の箇所においておおむね40mごとに幅20m程度としますが、できるだけ傾斜の変換点を選び、集材方法、地形などを勘案して防雪効果が効果的に確保できるよう設けます。なお、搬出上支障となる立木はなるべく1m以上の高さで伐倒し、防雪効果の維持に努めます。

#### (b) 公有林野等官行造林地

公有林野等官行造林地の伐採は、制限林にあつてはその制限内容に従って行います。

(イ) 皆伐天然更新を行う森林

a 対象森林

皆伐天然更新は、アカマツ等の森林であって天然下種による更新が確実な林分及びクヌギ、コナラ等の森林であって、ぼう芽による更新が確実な林分において行います。

b 伐区の形状その他立木の伐採に関する留意事項

伐区の面積は皆伐新植に準ずるとともに、特に確実な更新を期するため、伐区の形状、母樹の保残等について配慮するとともに、伐採は、天然生稚樹の生育状況及び種子の結実状況等を勘案し、適切な時期を選定して行います。

イ 択伐を行う森林

択伐を行う林分は、各種法令等により伐採の方法を択伐と指定された林分であって、択伐によって良好な天然下種更新が確実に図られる林分において行います。

伐採に当たっては、樹種構成、林木の生長、生産材の期待径級等を勘案するとともに、森林生産力の増進が図られる適正な林型に誘導するよう配慮して択伐率等を適切に定めます。

(2) 立木の標準伐期齢

主要樹種について、平均成長量が最大となる年齢を基準とし、森林の有する公益的機能、既往の平均伐採齢及び森林の構成を勘案して次表のとおり定めます。

単位：年

地 区	樹 種					
	ス ギ	ヒノキ	マ ツ	その他 針葉樹	主として萌芽 によって成立 する広葉樹	主として植栽又 は下種によって 成立する広葉樹
全 域	35	40	(35) 30	40	20	45

注：マツの(35)年は広島市（旧広島、安芸、船越、瀬野川、阿戸、矢野、五日市）、大竹市、廿日市市（廿日市、佐伯、大野）、安芸郡府中町、海田町、熊野町、坂町の地域に適用する。

(3) その他必要な事項

主伐の時期については、高齢級の人工林が急増すること等を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮しつつ、木材等資源の安定的かつ効率的な循環・利用を考慮して、多様化を図ります。

また、歴史を未来につなぐ森林づくりとして、歴史的木造建築物の修復資材の供給や資源となる森林の育成に取り組みます。

## 2 造林に関する事項

### (1) 人工造林に関する基本的事項

人工造林については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林や公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林のほか、木材等生産機能の発揮が期待され、将来にわたり育成単層林として維持する森林において行います。

更新に当たっては、花粉の少ない森林への転換を図るため、花粉症対策に資する苗木の植栽等に努めます。

また、効率的な施業実施の観点から、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入に努めます。

#### ア 人工造林の対象樹種

人工造林における造林すべき樹種は、土壌、地形等の自然条件を的確に把握した上で、適地適木を原則とし、立地条件、地域における造林種苗の需給動向及び木材の利用状況等を勘案し、スギ、ヒノキ及びケヤキ、クヌギ等の価値の高い有用広葉樹の中から最も適合した樹種を選定します。複層林にあつては、原則としてスギ又はヒノキとします。

#### イ 人工造林の標準的な方法

スギ、ヒノキともヘクタール当たり2,000本を標準とします。複層林にあつては、群状又は帯状伐採区は、ヘクタール当たり2,000本を、単木伐採は、ヘクタール当たり1,000本を標準とします。

なお、苗木の選定については、成長に優れたものの導入や少花粉スギ等の花粉症対策に資する苗木の使用に努めます。

地ごしらは、地力維持に配慮し、植生、地形、気象等の立地条件と、末木枝条の残存状況、植栽本数等に応じた適切な方法を採用します。植栽木とともに生育が期待できる天然生稚幼樹は刈り払わずに残します。

#### ウ 伐採跡地の人工造林をすべき期間

伐採跡地の更新をすべき期間は、公益的機能の維持や早期回復を図るため、人工造林によるものについては原則として2年以内とします。なお、伐採と造林を一貫して行う作業システムの導入に努めます。

### (2) 天然更新に関する基本的事項

天然更新については、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林において行います。

#### ア 天然更新の対象樹種

天然更新に係る補助作業の対象樹種は、既往の天然生有用広葉樹種の造林成績及び林

産物の需要動向を勘案し、ヒノキ、アカマツ、ケヤキ、ミズメ、クヌギ、コナラ等とします。

## イ 天然更新の標準的な方法

### (ア) アカマツ

アカマツは原則として天然更新によることとし、アカマツの生態的適地で、かつアカマツが現存し、植生状態等の立地条件から天然更新による成林が可能な箇所を選定し、母樹の保残に努め、伐採前の地ごしらえを行います。

天然更新補助作業は現地の実態に応じて必要な植込み、まき付けを行うほか、必要な稚樹の刈り出しを行います。

### (イ) 広葉樹

伐採面積、母樹保残、側方天然下種における伐区の形状等を十分検討し、確実な稚樹の発生に必要な伐採方法を選定します。なお、発生した稚樹が少ない場合には天然更新補助作業として刈り出し等を行います。

有用広葉樹については、地理的条件、土壌条件等から、広葉樹の適地を対象としてぼう芽による更新を図るため、天然更新補助作業として芽かき、刈り出し等を行います。

また、期間を定めて更新状況を確認し、更新が完了していないと判断される場合には、植栽等により確実に更新を図ります。

## (3) その他必要な事項

材質が堅く成長が早い早生樹について、関係機関との連携も図りつつ、試験植栽を行い技術開発を計画的に進めます。

## 3 間伐及び保育に関する事項

健全な森林の育成による二酸化炭素の吸収目標の達成及び多様な森林への誘導に必要な間伐や保育を適確に実施します。

なお、実施に当たっては、森林施業の効率化・低コスト化を推進するための技術の普及及び定着に留意します。

### (1) 間伐の標準的な方法

林分の健全化、林木の形質の向上等を図ることを目的として、林木の競合状態に応じて間伐を実施します。

実施時期は、樹冠がうっ閉したことにより、下層植生の一部が消失している若しくは消失するおそれのある場合又は林木相互間に競合による優劣が生じた時期とします。

保育間伐等定性間伐の選木については、間伐後の林木の質的向上と林分の健全性の保持を目的に、主として形質良好な上中層の林木を保残することとし、それ以外の形質不良木

や形質良好であっても保残木の成長に影響する上層木等を選びます。

利用間伐では、効率的に間伐を実施するため、林木の生育状況や立地条件等を考慮の上、列状間伐を推進します。

間伐率は、35%（材積率）を上限とし、現地の実態に応じて決定します。

## (2) 保育の標準的な方法

更新の完了後、育成しようとする樹木の成長を助け、健全な森林を育成するため、下刈り、除伐、鳥獣害防止対策等の作業を行います。

### ア 下刈り

目的樹種の成長を阻害する草本植物等を除去し、目的樹種の健全な育成を図るため、局地的気象条件、植生の繁茂状況等に応じた適切な時期に、適切な作業方法により行います。また、その実施時期については、目的樹種の生育状況、植生の種類及び植生高により判断します。

### イ 除伐

下刈りの終了後、林冠がうっ閉する前の森林において、目的樹種の成長を阻害する樹木等を除去し、目的樹種の健全な成長を図るため、森林の状況に応じて適時適切に行います。また、目的外樹種であっても、その生育状況や将来の利用価値を勘案し、有用なものは、保残し育成します。

### ウ 鳥獣害防止対策

野生鳥獣による樹木等への被害が見込まれる森林において、目的樹種の成長を阻害する野生鳥獣による被害を防除するため、施業と一体的に行う防護柵等の鳥獣害防止施設等の整備や捕獲等を行います。

なお、植栽木等への被害が見込まれる場合は、植栽木等がニホンジカによる食害を防止できる樹高になるまで、有効な方法を実施します。

樹種	作業種	経過年数（年）															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
スギ ヒノキ	下刈り	←—————→															
	除伐									←—————→							
	鳥獣害防止対策	←															

注：この表は、目安を示したものであり、実施に当たっては画一性を排除し、必要に応じて行います。複層林の下木の保育についても、表に準じて実施します。

### (3) その他必要な事項

その他つる切り等の保育については、必要に応じて行います。

## 4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

### (1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における森林施業の方法

公益的機能別施業森林の区域及び施業方法については別表1のとおり定めます。

#### ア 公益的機能別施業森林の区域

(ア) 水源の涵養<sup>かん</sup>の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

水源涵養<sup>かん</sup>機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせて定めます。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等については例外的に単独で区分します。

(イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

a 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

山地災害防止機能、土壌保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域にかかる地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせします。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地については例外的に単独で区分します。

b 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

快適環境形成機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせします。

c 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

保健・レクリエーション機能又は文化機能の高度発揮が定められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせします。ただし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有する保護林、レクリエーションの森等については例外的に単独で区分します。



## イ 公益的機能別施業森林区域内における施業の方法

天然生林については、公益的機能発揮の持続的な維持・管理を必要とする森林を除き手を加えません。他の施業については次のとおりです。

### (ア) 水源の涵養<sup>かん</sup>の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、伐期の間隔の拡大とともに伐採面積の縮小・分散を図ることを基本とし、下層植生の維持（育成複層林にあつては、下層木の適確な生育。）を図りつつ、根系の発達を確保します。

具体的には、立地条件に応じて長伐期施業、択伐による複層林施業、複層林施業（択伐によるものを除く。）を積極的に推進します。

### (イ) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

#### a 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

原則的に択伐による複層林施業を積極的に推進するほか、立地条件や国民のニーズに応じ、天然性広葉樹の育成等による針広混交の育成複層林への誘導を図ります。

#### b 快適な環境の形成機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

皆伐をしないことを前提として、立地条件や国民のニーズ等に応じ、森林構成の維持を基本とした択伐による複層林施業を継続的に実施するほか、求められる効果に最も適合した森林の姿になるよう、樹種の選定や立木の密度等に配慮した更新、下枝の着生状態や葉量の保持等に配慮した保育、間伐等を積極的に行います。

#### c 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

郷土樹種を主体とした花木や広葉樹との混交も考慮に入れ、択伐による複層林施業を行います。

## (2) その他必要な事項

森林レクリエーション施設と一体となった広葉樹林等美しく快適な森林空間を創出するほか、地域住民と都市住民との連携による国民に開かれた里山林等の整備を推進します。

また、歴史的木造建築物等の周辺の森林については、それらの建物と一体となった森林環境の保全・造成を推進します。

## 5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

### (1) 林道等の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道等路網の開設については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出や多様な森林への誘導等に必要な森林施業を

効果的かつ効率的に実施するため、一般車両の走行を想定する「林道」、主として森林施業用の車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材等の作業を行う林業機械の走行を想定する「森林作業道」からなる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムに対応したものとします。その際、(2)の効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準を目安として林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道を適切に組み合わせて整備（既設路網の改良を含む。）します。

また、林道の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じ林業専用道を導入するなど、丈夫で簡易な規格・構造を柔軟に選択するとともに、自然条件や社会的条件が良く、将来にわたり育成単層林として維持する森林を主体に整備を加速化させるなど、森林施業の優先順位に応じた整備を推進します。

開設する林道の路線配置、規格、構造等の基本的な考え方については、発揮すべき機能を踏まえた森林ごとに、以下のとおりとします。

#### ア 水源涵養<sup>かん</sup>、山地災害防止／土壤保全機能

水源涵養<sup>かん</sup>、山地災害防止／土壤保全機能の維持向上のため積極的な施業を実施すべき森林においては、林道の開設に伴う土砂の流出や崩壊を起こさないことを基本に、線形、規格を選定し必要な路網を整備します。ただし、山地災害の危険性が高い地域については、新たな林道等の開設を回避する等特段の配慮をします。

また、既路線においては、路面の洗掘等による土砂の流出が起こらないよう施設の整備を行います。

#### イ 快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全機能

保健・レクリエーション機能の発揮を求められる森林において、森林へのアクセス等に必要路網の整備を行う場合には、林道については利用者の利便性等の確保の観点に加え、森林作業道や歩道も含め景観や生態系の保全に配慮した線形、構造及び施設を選択します。

また、快適環境形成、文化、生物多様性保全機能の発揮を求められる森林等景観や生態系の保全が特に求められる森林については、新たな林道の開設を回避する等、森林の管理上必要最小限の整備とします。

#### ○基幹路網の現状

単位 延長：km

区分	路線数	延長
基幹路網	37	97
うち林業専用道	2	1

## (2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方

路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの普及・定着を図ることとし、繰り返しの間伐等継続的な施業が必要な育成単層林や育成複層林の対象地にあつては、低コストで効率的な作業システムに対応するため、下表を目安として林道及び森林作業道を整備するよう努めます。

### ○効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準

単位：m/ha

区 分	作業システム	路網密度	
			基幹路網
緩傾斜地（0°～15°）	車両系作業システム	100以上	35以上
中傾斜地（15°～30°）	車両系作業システム	75以上	25以上
	架線系作業システム	25以上	25以上
急傾斜地（30°～35°）	車両系作業システム	60以上	15以上
	架線系作業システム	15以上	15以上
急峻地（35°～）	架線系作業システム	5以上	5以上

※出典：林野庁「路網・作業システム検討委員会最終取りまとめ」

## (3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその搬出方法

該当ありません。

## (4) その他必要な事項

土場、作業施設の整備に当たっては、気象、地形及び地質等の自然的条件、地域における土地利用及び森林の現況等を総合的に勘案し、整備箇所の選定を適切に行います。また、土砂の流出又は崩壊、水害等の災害の発生をもたらす、又は地域における水源の確保、環境の保全に支障を来すことのないよう、その態様等に応じ、法面の緑化、土留工等の防災施設及び貯水池等の設置並びに環境の保全等のための森林の適正な配置等適切な措置を講じます。

なお、林道等路網の整備については、民有林と連携を図りながら一体的・効率的に推進します。

## 6 森林施業の合理化に関する事項

### (1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

地域における林業事業者の育成・強化に当たっては、事業規模の拡大、機械装備の充実等による経営体質の強化とともに、これを通じた林業労働者の就労条件の整備が課題とな

っています。

このため、民有林関係者及び関係機関と一層連携を強化して、森林共同施業団地の設定等による事業量の確保、事業の計画的発注、広域就労の促進等により雇用の長期化・安定化を図るとともに、技術研修等の実施及び研修フィールドの提供等を通じ、機械化の促進に努めます。

さらに社会保険等への加入促進等就労条件の改善に関する指導の推進、労働安全衛生の確保、山村の生活基盤の整備等により、林業労働者の就労条件の整備に努め、林業従事者の養成・確保を図ります。

## **(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針**

高性能林業機械の導入は、間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要な森林施業の効果的かつ効率的な実施に不可欠なものであるとともに、労働生産性の向上、労働災害の減少、重筋労働からの解放による林業経営の合理化、林業事業者の体質強化及び林業労働者の確保を図る上で重要なポイントとなります。

このため、民有林関係者及び関係機関と一層連携を強化して、森林共同施業団地の設定等による事業量の確保及び路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの普及・定着を推進するとともに、現地の作業条件に応じた作業システムを効率的に展開できる技術者の養成に寄与するよう努めます。

この場合、林業機械の導入に必要な路網の整備については、低コストで効率的な作業システムに対応し得るよう、林道、林業専用道、森林作業道を適切に組み合わせ、より効率的な森林施業のための路網への重点化を図ります。

## **(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針**

林産物の利用を促進するための施設の整備については、森林所有者等から木材製造業者等に至る木材の安定的取引関係の確立、施設・設備の大型化・高性能化、複数の中小工場の連携による生産の効率化、木材生産者や製材・合板工場、工務店等の連携による取組等による加工・流通コストの低減や供給ロットの拡大、地域における熱利用及び熱電併給等に向けた関係者の連携等を通じて、建築、土木、製紙、再生可能エネルギー等の多様な分野における需要者のニーズに即した品質及び強度性能の明確な木材製品を大量に安定的かつ低コストに供給し得る体制の整備を図るため、民有林と一体となって取組を推進します。

### **ア 木材の生産・流通の合理化**

事業の発注見通し等を公表しつつ、民有林の関係者及び素材生産業者・流通業者と一体となって、森林計画区を単位とした計画的な木材生産や協調出材等により木材の産地・銘柄化を図るなど生産・流通の合理化に努めます。

#### イ 生産・流通・加工を通じた関係者の合意形成

広域原木流通協議会等を活用し、地域材の産地化などについて関係者の合意形成に努め、国有林及び民有林、川上から川下まで一体となった合理的な木材の生産・流通システムの確立を図ります。

#### ウ 国産材の安定供給体制の整備

森林吸収目標達成のために必要な間伐の適確な実施、国産材の利用拡大を軸とした林業及び木材産業の成長産業化に資するため、国有林と民有林関係者が連携して、間伐材の生産性向上を図るとともに、需要者ニーズに対応した国産材の安定供給体制の整備を強力に推進します。

#### (4) その他必要な事項

森林経営管理制度の導入により、民有林において、森林の経営管理を森林所有者自らが実行できない場合には、市町村が経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に再委託することとなっていることから、国有林としても、事業委託に際してはこうした林業経営者の受注機会の拡大に配慮するなど、意欲と能力のある林業経営者の育成に取り組むとともに、自ら森林経営を実施する市町村を支援するため、現地検討会の開催等を通じて森林・林業技術の普及や情報提供に取り組めます。

## 第4 森林の保全に関する事項

### 1 森林の土地の保全に関する事項

#### (1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

森林施業及び土地の形質変更にあたり、水源の涵養、土砂の流出及び崩壊の防止上、特に林地保全に留意すべき森林は、水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、魚つき保安林、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域とします。

樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区は次のとおりです。

単位：ha

所	在	面積	留意すべき事項
市町村	区域		
広島市	1～7、9、10、16、26～32、34、36、37、39～44、47～58、60～70、201～218、234、235、461、464、554～556 ※亀山生産森林組合 4 ※三入財産区 2～6 ※高南財産区 4、5 ※秋山生産森林組合 2、3	4,391.92	林地の適正な管理及び適切な施業の実施により林地の保全を図るほか、土石・樹根の採掘、開墾、その他土地の形質変更にあたっては十分留意する。
廿日市市	96～105、241～271、284～287、293～300	4,313.67	
海田町	8	66.14	
熊野町	11～15	197.01	
坂町	23、24	46.93	
安芸太田町	223～226、228～233、237、272～279、288～292	2,096.52	
北広島町	221、222、227、280～283、301、302 ※KK苺尾営林社 1 ※北広島町 1～4、7、12、13 ※小市場区有林有限会社 1 ※本地財産区 4	1,013.15	
計		12,125.34	

注：※は、公有林野等官行造林地

#### (2) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要のある森林及びその搬出方法

該当ありません。

#### (3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項

土地の形質の変更に当たっては、調和のとれた快適な地域環境の整備を推進する観点に立って森林の適正な保全と利用との調整を図り、地域における飲用水等の水源として依存度の高い森林、良好な自然環境を形成する森林等、安全で潤いのある居住環境の保全、形

成に重要な役割を果たしている森林の他用途への転用は極力避けます。

また、土石の切取り、盛土等を行う場合には、気象、地形、地質等の自然条件、地域における土地利用及び森林の現況並びに土地の形質変更の目的及び内容を総合的に勘案し、実施地区の選定を適切に行います。また、土砂の流出や崩壊、水害等の災害の発生をもたらし、又は地域における水源の確保、環境の保全に支障を来すことのないよう、その態様等に応じ、法面の緑化、土留工等の防災施設や貯水池等の設置環境の保全等のための森林の適正な配置等の適切な措置を講じます。

#### **(4) その他必要な事項**

特に記すべき事項はありません。

## **2 保安施設に関する事項**

### **(1) 保安林の整備に関する事項**

保安林については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、流域における森林に関する自然的条件、社会的要請及び保安林の配備状況等を踏まえ、水源のかん養、災害の防備、保健・風致の保存等の目的を達成するための保安林として指定する必要がある森林について、適切に保安林を配備するとともに、必要に応じて指定施業要件を見直し、適切な森林整備を実施することによりその保全を確保します。

### **(2) 保安施設地区に関する事項**

保安林が指定されていない箇所、水源のかん養、土砂の流出防備、土砂の崩壊防備、飛砂の防備、風害、水害、潮害、干害、雪害又は霧害の防備、なだれ又は落石の危険の防止、火災の防備の目的を達成するため、森林の造成事業若しくは維持に必要な事業を行う必要があれば、保安施設地区に指定します。

### **(3) 治山事業に関する事項**

治山事業については、第2の1に定める「森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項」に則し、国民の安全・安心の確保を図る観点から、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化を図るため、近年、頻発する集中豪雨や地震等による大規模災害の発生のおそれが高まっていること及び山腹崩壊等に伴う流木災害が顕在化していることを踏まえ、山地災害による被害を防止・軽減する事前防災・減災の考え方に立ち、緊急かつ計画的な実施を必要とする荒廃地等を対象として、植栽、本数調整伐等の保安林の整備及び溪間工、山腹工等の治山施設の整備を、流域特性等に応じた形で計画

的に推進します。

また、流木対策としては、治山ダムの設置や根系等の発達を促す間伐等の森林整備、流木化して下流域へ被害を及ぼす可能性の高い流路部の立木の伐採等に取り組みます。

その中で、流域保全の観点からの関係機関との連携や、地域における避難体制の整備などのソフト対策との連携を通じた効果的な治山対策を講じます。その際、保安林の配備による伐採等に対する規制措置と治山事業の実施の一体的な運用、既存施設の長寿命化対策の推進を含めた総合的なコスト縮減に努めるとともに、現地の実情を踏まえ、必要に応じて、在来種を用いた植栽・緑化など生物多様性の保全に努めます。

#### **(4) その他必要な事項**

特に記すべき事項はありません。

### **3 鳥獣害の防止に関する事項**

#### **(1) 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止方針**

##### **ア 区域の設定**

鳥獣害防止森林区域については別表2のとおり定めます。

##### **イ 鳥獣害の防止の方法**

森林の的確な更新及び造林木の確実な育成を図ることを旨として、地域の実情に応じて、対象鳥獣の別に、当該対象鳥獣による被害の防止に効果を有すると考えられる方法として、防護柵の設置及び維持管理、幼齢木保護具の設置、剥皮防止帯の設置、現地調査等による森林のモニタリングの実施等の植栽木の保護措置又はわな捕獲（囲いわな、くくりわな、箱わな、ドロップネット等によるものをいう。）、誘引狙撃等の銃器による捕獲等による鳥獣害防止対策を推進します。

保護林においては、上記に準じた鳥獣害防止対策を推進します。

その際、関係行政機関等と連携した対策を推進することとし、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携・調整に努めます。

#### **(2) その他必要な事項**

特に記すべき事項はありません。

### **4 森林病虫害の駆除及び予防その他の森林の保護に関する事項**

#### **(1) 森林病虫害等の被害対策の方針**

病虫害等による被害の未然防止、早期発見及び早期駆除に努めます。特に、松くい虫に



よる被害については、被害抑制のための健全な松林の整備と防除対策の重点化、地域の自主的な防除活動等の一層の推進を図るとともに、被害の状況等に応じ、被害跡地の復旧及び抵抗性を有するマツ又は他の樹種への計画的な転換の推進を図ります。なお、抵抗性を有するマツの転換に当たっては、気候、土壌等の自然的条件に適合したものを導入します。

また、ナラ枯れ被害についても、被害監視から防除実行までの地域の体制づくり、新たな技術の導入も含めた適切な防除を推進するとともに、里山等における広葉樹林の整備を通じた被害の未然防止を図ります。

## **(2) 鳥獣害対策の方針（3に掲げる事項を除く。）**

3(1)アにおいて定める対象鳥獣以外の鳥獣による森林被害及び鳥獣害防止森林区域外における対象鳥獣による森林被害について、地域の森林資源の構成、被害の動向を踏まえ、必要に応じて、3(1)イに準じた鳥獣害防止対策を推進します。

特に、野生鳥獣による被害が深刻な森林については、その区域等を明確化して鳥獣害防止対策を推進します。

また、野生鳥獣との共存にも配慮した針広混交林の育成複層林の整備、野生鳥獣と地域住民の棲み分けに配慮した緩衝帯の整備等を推進します。

## **(3) 林野火災の予防の方針**

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、森林巡視、山火事警防等を適時適切に実施するとともに、防火線、防火樹帯等の整備を推進します。

## **(4) その他必要な事項**

山火事、病虫害、鳥獣害、風水害等の早期発見に重点を置くとともに、森林管理にも配慮した林野巡視に努めます。

また、森林の保護管理等を推進するため、地域の要望に基づく保安施設の整備や、啓発用の標識の設置等に努めます。

## 第5 計画量等

### 1 伐採立木材積

単位：千m<sup>3</sup>

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹
総 数	435	426	9	127	118	9	308	308	—
前半5ヵ年の計画量	(15) 286	284	2	84	81	2	203	203	—

注：1 ( )は、地域管理経営計画等において定めるあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量で外書。  
2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがあります。

### 2 間伐面積

単位：ha

区 分	間 伐 面 積
総 数	2,594
前半5ヵ年の計画量	1,733

### 3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位：ha

区 分	人 工 造 林	天 然 更 新
総 数	237	132
前半5ヵ年の計画量	105	—

#### 4 林道の開設又は拡張に関する計画

単位 延長：km、面積：ha

開設 拡張 別	種類	区分	位 置 市町村	路 線 名	延 長 及 び 箇所数	利用 区域 面積	前半 5カ 年の 計画 箇所	対図 番号	備 考
開設	自動車道	林業 専用 道	広 島 市	不明山林業専用道	(1)2.50	137		①	
				海上山林業専用道	(1)0.70	70	○	②	
			廿日市市	黒打山林業専用道	(2)3.80	229	○	③	
	計				(4)7.00				
拡張	自動車道	林道	廿日市市	下山林道	(1)0.02		○	④	

注：（ ）は箇所数

#### 5 保安林整備及び治山事業に関する計画

##### (1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

##### ① 保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位：ha

保 安 林 の 種 類	面 積	前半5カ 年の計 画面積	備 考
保安林総数(実面積)	14,623	14,623	
水源かん養のための保安林	9,634	9,634	
災害防備のための保安林	2,600	2,600	
保健、風致の保存のための保安林	4,185	3,981	

注：総数欄は、2以上の目的を達成するために指定される保安林があるため、水源かん養のための保安林等の内訳の合計に一致しないことがあります。

② 計画期間内において保安林の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等

単位：ha

指定/解除	種類	森林の所在		面積	前半5カ年の計画面積	指定又は解除を必要とする理由	備考
		市町村	区域				
指定	水源かん養保安林	広島市	33～35、562	215.09	215.09	水源かん養のため	
	保健保安林	廿日市市	247～263、293～295	203.87	—	公衆の保健のため	

③ 計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積

単位：ha

権限別	種類	伐採方法の 変更面積	皆伐面積の 変更面積	択伐率の 変更面積	間伐率の 変更面積	植栽の 変更面積
大臣	水源かん養保安林	—	—	764	764	764
	土砂流出防備保安林	—	—	1,376	1,376	1,376
	風致保安林	—	—	2,379	2,379	2,379
	保健保安林	—	—	538	538	538

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等

該当ありません。

(3) 実施すべき治山事業の数量

単位：地区

森林の所在		治山事業 施工 地区数	前半5カ年 の計画	主な工種	備考
市町村	区域				
広島市	63、213、464	3	1	溪間工、山腹工	
廿日市市	270	1		山腹工	
安芸太田町	230	1	1	山腹工	
合計		5	2		

## 第6 その他必要な事項

### ○ 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

#### (1) 法令により施業について制限を受けている森林

単位：ha

種 類	森 林 の 所 在		面 積	備 考
	市 町 村	区 域		
水 源 かん 養 保 安 林	広 島 市	28～30、34、49～51、54、55、 60、65、201～218、234、235、 461、464、554～556 ※高南財産区 4、5 ※秋山生産森林組合 2、3	2,116.19	
	廿 日 市 市	96～102、104、105、241～271、 284～287、293～300	4,234.35	
	安芸太田町	223～226、228～232、237、 272～279、288～292	2,059.99	
	北 広 島 町	221、222、227、280～283、 301、302 ※KK刈尾営林社 1 ※北広島町 1～4、7、12、13 ※小市場区有林有限会社 1 ※本地財産区 4	1,008.41	
土 砂 流 出 防 備 保 安 林	広 島 市	1～7、9、10、16、26、27、31、 32、36、37、39～44、47、48、 50～53、56～58、60～70 ※亀山生産森林組合 4 ※三入財産区 2～6	2,222.59	
	廿 日 市 市	103	56.98	
	海 田 町	8	66.14	
	熊 野 町	11～15	196.73	
	坂 町	24	36.89	
	安芸太田町	233	21.06	
魚つき保安林	坂 町	23	9.89	
保 健 保 安 林	広 島 市	41～44、47、48、57、58、61、 67～70、464	565.42	
	廿 日 市 市	241～246、249、257、258、 262～269、295、297、298	951.95	
	海 田 町	8	66.14	
	坂 町	23	9.89	
風 致 保 安 林	廿 日 市 市	71～93	2,378.14	

種 類	森 林 の 所 在		面 積	備 考
	市 町 村	区 域		
砂 防 指 定 地	広 島 市	3、6、37、50、51、54、70、461	10.10	
	安芸太田町	237	4.03	
国 立 公 園 第 1 種 特 別 地 域	廿 日 市 市	71～93	1,219.69	
国 立 公 園 第 2 種 特 別 地 域	広 島 市	44、47	73.22	
	廿 日 市 市	71～73、76～80、82、83、85、 87～93	594.32	
国 立 公 園 第 3 種 特 別 地 域	廿 日 市 市	71、73～80、82～85、87～93	579.30	
国 定 公 園 第 1 種 特 別 地 域	廿 日 市 市	241～246、249～258、 264～269、294、295、297、298	277.09	
	安芸太田町	272～275、278、279、 288～290、292	131.64	
国 定 公 園 第 2 種 特 別 地 域	廿 日 市 市	247～266、293～295、297、298	361.33	
	安芸太田町	272～278、288～291	117.10	
国 定 公 園 第 3 種 特 別 地 域	廿 日 市 市	241～269	1,588.16	
	安芸太田町	272～279、288～292	1,249.70	
	北 広 島 町	※KK苧尾営林社 1 ※北広島町 3、4	123.80	
県 立 自 然 公 園 第 3 種 特 別 地 域	広 島 市	※亀山生産森林組合 4 ※三入財産区 2～6	303.08	
県 自 然 環 境 保 全 地 域 特 別 地 区	安芸太田町	223～226	97.81	
	北 広 島 町	227	36.25	
特 別 史 跡 名 勝 天 然 記 念 物	廿 日 市 市	71～93	2,393.31	
史 跡 名 勝 天 然 記 念 物	広 島 市	31、32、61、212	18.65	
急 傾 斜 地 崩 壊 危 険 区 域	広 島 市	44	0.84	

注：※は、公有林野等官行造林地

## (2) 制限林の施業方法

森林法、その他法令等により森林施業に制限のある森林は、それら法令等の目的達成に支障を及ぼさない範囲内で森林施業を行い、その種類ごとの伐採方法、更新方法及びその他施業に係る一般的事項は、次のとおりとします。

### ア 保安林

#### (7) 伐採方法

##### a 主伐

##### (a) 伐採種

それぞれの保安林の指定施業要件に定める伐採種によることとします。

##### (b) 伐採することのできる立木の年齢

樹種別に本計画に定めた標準伐期齢以上とします。

##### (c) 皆伐する場合の制限

伐採年度当たりの皆伐面積の限度は、保安林単位区域ごとの総年伐面積の範囲内とし、伐採年度ごとに皆伐することのできる一箇所当たりの面積は、それぞれの保安林の指定施業要件に定める面積以内とします。

##### (d) 択伐する場合の制限

伐採年度ごとに択伐することのできる立木の材積は、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積に、それぞれの保安林の指定施業要件に定められた択伐率を乗じて算出した材積以内とします。

##### b 間伐

##### (a) 間伐することのできる箇所は、樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とします。

##### (b) 間伐することのできる材積は、それぞれの保安林の指定施業要件に定められた伐採率により算出した材積以内とします。

なお、伐採により樹冠疎密度が10分の8を下がったとしても、当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね5年後に当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実であると認められる範囲内の材積とします。

#### (4) 更新

保安林の指定施業要件に植栽の指定がある場合は、植栽の方法、植栽期間、植栽樹種についてそれぞれ定められた内容の施業を行います。

### イ 砂防指定地に係る森林

県知事の定める砂防指定地管理規則等の範囲内で施業を行います。

### ウ 自然公園特別地域内の森林

自然公園特別地域内における森林施業に関する制限は、次のとおりです。

(ア) 第1種特別地域

- a 第1種特別地域の森林は禁伐とします。ただし、風致維持に支障のない限り、単木択伐法を行うことができます。
- b 単木択伐法は次により行います。
  - (a) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定します。
  - (b) 択伐率は現在蓄積の10%以内とします。

(イ) 第2種特別地域

- a 第2種特別地域の森林施業は、択伐法とします。
  - ただし、風致の維持に支障のない限り、皆伐法によることができます。
- b 公園計画に基づく車道、歩道、集団施設地区及び単独施設の周辺は、原則として単木択伐法によるものとします。
- c 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢以上とします。
- d 択伐率は用材林においては現在蓄積の30%以内とし、薪炭林においては60%以内とします。
- e 特に指定した風致樹については、保育及び保護に努めます。
- f 皆伐法による場合、その伐区は次のとおりとします。
  - (a) 1伐区の面積は2ha以内とします。ただし、疎密度3より多く、保残木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合、伐区面積を増大することができます。
  - (b) 伐区は、更新後5年以上を経過しなければ連続して設定することはできません。この場合においても、伐区は努めて分散させます。

(ウ) 第3種特別地域

第3種特別地域の森林は、全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業制限を設けません。

**エ 県自然環境保全地域特別地区として定められた地区内の森林**

条例の定めるところによります。

**オ 史跡名勝天然記念物に係る森林及び史跡名勝天然記念物保存のための地域内の森林**

- (ア) 伐採は、原則として禁伐とします。ただし、やむを得ない場合は文化財保護法又は県等の定める文化財保護条例等に基づき、指定物件の景観を損なわないよう配慮して伐採することができます。
- (イ) 更新は、原則として現在樹種の天然更新とします。

**カ 急傾斜地崩壊危険区域に係る森林**

伐採に当たっては県知事の許可を受ける必要があります。



## 別表 1 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

### 1 水源の涵養<sup>かん</sup>の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分	森林の区域	面 積	施業方法	
総 数		13,935.92		
市 町 村 別 内 訳	広 島 市	1～7、9、10、16、26～37、 39～44、47～70、201～218、 234、235、461、464、554～556、 562	4,230.01	伐期の延長、 長伐期施業、 複層林施業(択伐)、 複層林施業(択伐以外)
	廿日市市	71～93、96～105、241～271、 284～287、293～300	6,715.81	
	海 田 町	8	66.14	
	熊 野 町	11～15	197.01	
	坂 町	23、24	46.93	
	安芸太田町	223～226、228～233、237、 272～279、288～292	2,103.55	
	北広島町	221、222、227、280～283、301 302	576.47	

### 2 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

#### (1) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分	森林の区域	面 積	施業方法	
総 数		2,252.66		
市 町 村 別 内 訳	広 島 市	1～7、9、10、16、26、27、31、 32、34、36、37、39、47～54、 56～58、60、62～70、204、217、 461、556	1,817.49	複層林施業(択伐) 複層林施業(択伐以外)
	廿日市市	103、270	73.07	
	海 田 町	8	66.14	
	熊 野 町	11～15	197.01	
	坂 町	24	36.89	
	安芸太田町	231、233、237	55.81	
	北広島町	227	6.25	

(2) 快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林  
該当ありません。

(3) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位：ha

区 分		森林の区域	面 積	施業方法
総 数			5,031.38	
市 町 村 別 内 訳	広 島 市	40～44、55、61、212、216、464	389.34	複層林施業(択伐) 複層林施業(択伐以外)
	廿日市市	71～93、98、241～269、286、 293～295、297、298	3,843.79	
	坂 町	23	10.04	
	安芸太田町	223～226、228、229、272～279、 288～292	751.03	
	北広島町	227	37.18	

別表 2 鳥獣害防止森林区域

単位：ha

区 分		対象鳥獣の種類	森林の区域	面 積
総 数				7,262.54
市 町 村 別 内 訳	広 島 市	ニホンジカ	1～7、9、10、28～37、39～43、 49～52、60、201～218、234、235、 461、464、554 ※宇津生産森林組合 1 ※亀山生産森林組合 4 ※三入財産区 2～6 ※高南財産区 4、5 ※秋山生産森林組合 1～3	3,697.84
	廿日市市	ニホンジカ	71～93	2,393.31
	海 田 町	ニホンジカ	8	66.14
	安芸太田町	ニホンジカ	223～226、228～233	540.95
	北広島町	ニホンジカ	221、222、227、280～283、301	564.30

注：※は、公有林野等官行造林地

## (附) 参 考 资 料

# 1 森林計画区の概況

## (1) 市町村別土地面積及び森林面積

単位：面積 ha、比率 %

区 分	区域面積①	森 林 面 積			森 林 比 率 ②/①×100	
		総 数 ②	国 有 林	民 有 林		
総 数	253,656	195,050	15,071	179,979	76.9	
広 島 市	90,668	60,338	4,875	55,463	66.5	
大 竹 市	7,866	5,747	—	5,747	73.1	
廿日市市	48,948	41,503	6,716	34,787	84.8	
安芸郡	府 中 町	1,041	434	—	434	41.7
	海 田 町	1,379	643	119	525	46.7
	熊 野 町	3,376	2,091	197	1,894	61.9
	坂 町	1,569	762	47	715	48.6
山県郡	安芸太田町	34,189	30,208	2,104	28,104	88.4
	北広島町	64,620	53,324	1,014	52,310	82.5
県 全 域	847,963	610,031	47,235	562,796	71.9	

注：1 区域面積：国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積（平成29年度）」による。

2 表中の森林面積は、森林法第5条に定められている森林の面積を示す。

3 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

## (2) 地 況

### ア 気 候

観 測 地	年 間	月平均気温 (°C)			日照時間 (h)	最 大 積雪深 (cm)
	降水量 (mm)	最 高 (°C)	最 低 (°C)	年平均 (°C)		
広 島 市 (広島)	1,689	28.4	5.4	16.6	2,037.3	8
大 竹 市 (大竹)	1,902	27.8	4.6	16.2	2,002.1	—
廿日市市 (津田)	2,113	25.1	0.8	12.9	1,826.4	—
安芸太田町 (加計)	1,875	25.5	1.1	13.3	1,575.0	—
北広島町 (大朝)	1,955	24.1	-0.2	11.8	1,606.0	56
北広島町 (八幡)	2,636	—	—	—	—	132

注：1 広島県地方気象台「広島県気象年報」による。

2 数値は、平成25年～29年の平均値による。

## イ 地 勢

本計画区は、中国地方の一般的特性を典型的に示しており、北部に東西に走る脊梁山地、その南側に高原状の低山地、南部海岸沿いに小規模な平野がみられ、脊梁山地に斜交する北東―南西方向及び西北西―東南方向の直線的な谷・山列が発達している。そのため、山岳が海岸線まで迫り、特に県境付近の中国山地と太田川流域が急峻である。また、太田川河口には三角州が形成されており、その上に市街地が発達している。

山岳は、西部から北部にかけて、広島県最高峰の恐羅漢山をはじめ、鬼ヶ城山、冠山、十方山、大佐山、阿佐山などの 1,000m級の山々が連なっている。また、東部には、白木山、堂床山などの 800～1,000m級の山々が瀬戸内海に面して連なっている。

河川は、中国山地の高峰冠山に源を発し、大小 72 河川の支流を集め、広島湾に注ぐ一級河川の太田川、廿日市市佐伯町飯山に源を発し、広島・山口県境を南流し瀬戸内海に注ぐ小瀬川、佐伯区湯来町の阿弥陀山付近に源を発し、広島県西部を流れ、広島湾に注ぐ二級河川八幡川などがある。

また、瀬戸内海には、世界文化遺産に登録されている厳島神社を要する厳島をはじめ、似島、金輪島、阿多田島などが点在している。

河川は、中国山地の高峰冠山に源を発し、大小 72 河川の支流を集め、広島湾に注ぐ一級河川の太田川、廿日市市佐伯町飯山に源を発し、広島・山口県境を南流し瀬戸内海に注ぐ小瀬川、佐伯区湯来町の阿弥陀山付近に源を発し、広島県西部を流れ、広島湾に注ぐ二級河川八幡川などがある。

また、瀬戸内海には、世界文化遺産に登録されている厳島神社を要する厳島をはじめ、似島、金輪島、阿多田島などが点在している。

## ウ 地質、土壌等

本計画区の地質は、全国 1 位の分布率となっている花崗岩が南部及び島しょ部を中心に広く分布しており、計画区全体の 51.8%を占めている。計画区北部一帯には流紋岩類が分布し、一部、廿日市市、安芸太田町（旧筒賀村）などに中・古生層が分布している。

土壌は、生産力に富む適潤性褐色森林土が北部を中心に広い範囲に分布しており、計画区内の 62.2%を占めている。南部沿岸部及び島しょ部には生産力のやや劣る未熟土が分布しており、一部、廿日市市、広島市及び北広島町（旧豊平町）などには乾性褐色森林土が分布している。

## (ア)市町村別地質分布面積（民有林）

単位：面積 ha

区 分		花崗岩	流紋岩	中・古生	第三・ 第四紀	その他	計
総 数		93,314	55,999	28,084	—	2,587	179,985
広 島 市		34,894	7,578	12,991	—	—	55,463
大 竹 市		5,189	—	558	—	—	5,747
廿日市市		19,622	5,320	—	—	1,586	34,787
安芸郡	府 中 町	434	—	6	—	—	440
	海 田 町	525	—	—	—	—	525
	熊 野 町	1,562	332	—	—	—	1,894
	坂 町	715	—	—	—	—	715
山県郡	安芸太田町	11,669	11,510	4,607	—	317	28,104
	北広島町	18,703	31,260	1,663	—	684	52,310
県 全 域		231,676	206,580	72,953	14,008	37,579	562,796

注：1 表中の民有林面積は、森林法第5条に定められている森林の面積を示す。

2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

## (イ)市町村別森林土壌分布面積（民有林）

単位：面積 ha

区 分		未熟土等	乾性褐色 森 林 土	適潤性褐 色森林土	湿性褐色 森 林 土	黒色土	計
総 数		11,805	53,589	111,906	55	2,624	179,979
広 島 市		4,705	22,954	27,761	—	43	55,463
大 竹 市		1,625	3,684	439	—	—	5,747
廿日市市		3,733	12,267	18,018	—	770	34,787
安芸郡	府 中 町	434	—	—	—	—	434
	海 田 町	295	230	—	—	—	525
	熊 野 町	298	1,406	190	—	—	1,894
	坂 町	715	—	—	—	—	715
山県郡	安芸太田町	—	324	27,725	55	—	28,104
	北広島町	—	12,726	37,773	—	1,811	52,310
県 全 域		52,217	208,976	280,688	55	20,860	562,796

注：1 表中の民有林面積は、森林法第5条に定められている森林の面積を示す。

2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

### (3) 土地利用の現況

単位：面積 ha

区 分	総 数	森 林	農 地			その他		
			総 数	うち田	うち畑	総 数	うち宅地	
総 数	253,656	195,050	4,969	4,272	601	53,638	12,584	
広 島 市	90,668	60,338	1,029	759	234	29,301	8,521	
大 竹 市	7,866	5,747	72	61	6	2,047	561	
廿日市市	48,948	41,503	410	321	64	7,035	1,454	
安芸郡	府 中 町	1,041	434	6	6	1	601	312
	海 田 町	1,379	643	17	8	8	719	226
	熊 野 町	3,376	2,091	89	81	7	1,196	309
	坂 町	1,569	762	—	—	—	807	193
山県郡	安芸太田町	34,189	30,208	283	204	66	3,698	234
	北広島町	64,620	53,324	3,063	2,832	215	8,233	774
県 全 域	847,963	610,031	34,107	28,338	3,162	203,825	36,439	

- 注：1 総面積：国土地理院測量部「全国都道府県市区町村別面積調（平成29年度）」による。  
 2 農地：農林水産省大臣官房統計部「農林業センサス（2015）」経営耕地の状況による。  
 3 宅地：広島県総務局税務課「平成29年度版市町村税の概要」による。  
 4 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

### (4) 産業別生産額

単位：金額 百万円

区 分	総生産額	第1次産業				第2次 産 業	第3次 産 業	その他	
		総額	農業	林業	漁業				
総 数	6,289,422	13,407	6,723	1,261	5,424	1,521,024	4,713,729	41,260	
広 島 市	5,293,651	4,819	2,254	385	2,180	1,151,883	4,097,508	39,441	
大 竹 市	162,363	1,063	41	39	983	92,825	67,279	1,197	
廿日市市	337,274	2,577	582	268	1,727	101,454	233,866	▲ 624	
安芸郡	府 中 町	140,396	3	—	3	—	54,642	85,395	355
	海 田 町	119,161	183	9	4	170	33,197	85,346	435
	熊 野 町	41,614	122	109	13	—	13,498	28,159	▲ 165
	坂 町	68,271	362	—	5	357	11,288	56,448	173
山県郡	安芸太田町	20,469	438	244	190	4	3,154	17,021	▲ 144
	北広島町	106,223	3,840	3,484	354	3	59,083	42,707	592
県 全 域	11,941,081	70,993	51,126	5,897	13,971	3,897,199	7,903,805	69,084	

- 注：1 広島県総務局統計課「平成27年度広島県市町民経済計算結果報告」による。  
 2 その他欄は、輸入品に課される税・関税（控除）総資本形成に係る消費税。  
 3 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

## (5) 産業別就業者数

単位：人数 人

区 分	総 数	第1次産業				第2次 産 業	第3次 産 業	分類 不能	
		総数	農業	林業	漁業				
総 数	702,576	9,335	7,877	432	1,026	160,065	483,812	49,364	
広 島 市	566,566	5,259	4,609	230	420	123,553	397,042	40,712	
大 竹 市	12,488	287	139	10	138	4,175	7,208	818	
廿日市市	55,057	1,241	803	60	378	13,120	37,274	3,422	
安芸郡	府 中 町	24,621	57	50	3	4	6,453	16,593	1,518
	海 田 町	14,107	82	63	4	15	4,062	8,998	965
	熊 野 町	10,993	196	185	5	6	3,796	6,333	668
	坂 町	5,736	74	13	1	60	1,412	3,757	493
山県郡	安芸太田町	2,953	340	285	53	2	654	1,704	255
	北広島町	10,055	1,799	1,730	66	3	2,840	4,903	513
県 全 域	1,336,568	41,312	36,678	1,194	3,440	347,007	852,929	95,320	

注：1 総務省統計局「平成27年国勢調査」による。  
 2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。



## 2 森林の現況(国有林)

### (1) 齢級別森林資源表

単位：面積 ha、材積 立木は千m<sup>3</sup> 立竹は千束、成長量 千m<sup>3</sup>

区分	総数			1 齢級			2 齢級			3 齢級			4 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	面積	15,070.58	3,088	47	4.46		2.88			45.14	1		64.34		
	針	14,594.00	3,088	47	4.46		2.88			45.14	1		64.34		
	広	8,610.73	2,282	37	4.46		2.88			45.09	1		45.40		
総数	面積	5,983.27	806	9						0.05			18.94		
	針	7,796.07	2,172	39	4.46		2.88			45.14	1		39.44		
	広	6,696.98	2,016	36	4.46		2.88			45.09	1		39.06		
人工林	面積	1,099.09	156	3						0.05			0.38		
	針	7,790.89	2,171	39	4.46		1.63			45.14	1		35.51		
	広	6,691.80	2,015	36	4.46		1.63			45.09	1		35.13		
育成林	面積	1,099.09	156	3						0.05			0.38		
	針	(5.18)													
	広	5.18	1				1.25						3.93		
総数	面積	6,797.93	915	8									24.90		1
	針	1,913.75	266	2									6.34		
	広	4,884.18	649	6									18.56		
天然林	面積	720.25	82	1									15.55		1
	針	298.75	36	1									6.21		
	広	421.50	46	1									9.34		
竹林	面積														
	針														
	広														
無立木地	面積	6,077.68	833	7									9.35		
	針	1,615.00	230	1									0.13		
	広	4,462.68	603	5									9.22		
立木地	面積	476.58													

注：1 人工林及び天然林で点生木のみは林分については、本表の集計には含まれません。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。

3 ( ) は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m<sup>3</sup> 立竹は千束、成長量 千m<sup>3</sup>

区分	5 齢級			6 齢級			7 齢級			8 齢級			9 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	137.54	10	1	211.27	27	2	590.69	102	5	362.07	92	3	781.92	196	5
	137.54	10	1	211.27	27	2	590.69	102	5	362.07	92	3	781.92	196	5
	針	9	1	170.36	26	2	255.76	75	4	297.09	84	3	567.08	173	4
総数	50.31	2		40.91	2		334.93	27	1	64.98	7		214.84	24	1
	90.92	9	1	171.03	25	2	291.30	85	4	321.87	85	3	706.50	187	5
	針	8	1	160.25	24	2	244.71	73	4	284.16	82	3	545.14	169	4
人工林	4.36			10.78	1		46.59	12		37.71	3		161.36	18	
	90.92	9	1	171.03	25	2	291.30	85	4	321.87	85	3	706.50	187	5
	針	8	1	160.25	24	2	244.71	73	4	284.16	82	3	545.14	169	4
育成林	4.36			10.78	1		46.59	12		37.71	3		161.36	18	
	総数														
育成林															
	針														
立木地															
	総数														
天然林	46.62	2		40.24	2		299.39	17	1	40.20	7		75.42	9	
	0.67			10.11	1		11.05	2		12.93	3		21.94	4	
	45.95	1		30.13	1		288.34	15	1	27.27	4		53.48	6	
育成林	12.62			25.19	2		13.63	2		19.07	3		10.01	2	
	0.67			9.52	1		8.68	1		5.71	1		4.19	1	
	11.95			15.67	1		4.95			13.36	1		5.82	1	
育成林															
	針														
無立木地	34.00	1		15.05	1		285.76	15	1	21.13	4		65.41	8	
				0.59			2.37	1		7.22	1		17.75	3	
	34.00	1		14.46	1		283.39	15	1	13.91	3		47.66	5	
竹林															
	針														

注：1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分については、本表の集計には含まれません。  
 2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。  
 3 ( ) は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m³ 立竹は千束、成長量 千m³

区分	1 0 齡級			1 1 齡級			1 2 齡級			1 3 齡級			1 4 齡級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	1,528.28	468	9	1,752.11	495	7	2,295.88	555	7	1,074.90	248	2	921.31	133	1
	1,528.28	468	9	1,752.11	495	7	2,295.88	555	7	1,074.90	248	2	921.31	133	1
	1,220.68	431	8	1,289.00	436	6	1,733.99	483	6	930.85	235	2	389.05	89	1
広	307.60	37	1	463.11	58	1	561.89	72	1	144.05	13		532.26	44	
総数	1,469.43	462	8	1,435.84	460	7	1,736.69	487	6	970.30	240	2	191.89	57	
	1,212.17	430	8	1,217.04	425	6	1,505.45	452	5	916.03	233	2	174.02	54	
	257.26	33	1	218.80	35	1	231.24	35		54.27	7		17.87	3	
育成林	1,469.43	462	8	1,435.84	460	7	1,736.69	487	6	970.30	240	2	191.89	57	
	1,212.17	430	8	1,217.04	425	6	1,505.45	452	5	916.03	233	2	174.02	54	
	257.26	33	1	218.80	35	1	231.24	35		54.27	7		17.87	3	
人工林															
育複層林															
立木地															
総数	58.85	6		316.27	35	1	559.19	67	1	104.60	8		729.42	75	1
	8.51	2		71.96	11		228.54	31		14.82	2		215.03	34	
	50.34	4		244.31	23		330.65	37	1	89.78	6		514.39	41	
育成林	26.97	3		112.43	17		382.62	41	1	1.21			40.49	1	
	3.92	1		54.04	7		173.84	20		0.52			12.37	1	
	23.05	2		58.39	9		208.78	21		0.69			28.12	1	
天然林															
育複層林															
天然生林	31.88	3		203.84	18		176.57	27		103.39	8		688.93	74	1
	4.59	1		17.92	4		54.70	11		14.30	2		202.66	34	
	27.29	2		185.92	14		121.87	15		89.09	6		486.27	40	
竹林															
無立木地															

注：1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分については、本表の集計には含まれません。  
 2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。  
 3 ( ) は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積 ha、材積 立木は千m<sup>3</sup> 立竹は千束、成長量 千m<sup>3</sup>

区分	1.5 齢級			1.6 齢級			1.7 齢級			1.8 齢級			1.9 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	376.24	30		158.60	14		260.92	48		209.67	32		121.18	24	
	376.24	30		158.60	14		260.92	48		209.67	32		121.18	24	
	139.07	19		46.00	6		175.85	35		26.27	5		76.94	17	
総数	237.17	11		112.60	8		85.07	13		183.40	27		44.24	7	
	7.14	2		6.47	1		111.77	25		19.82	4		17.90	5	
	6.42	2		5.56	1		90.74	21		14.64	3		15.29	5	
人工林	0.72			0.91			21.03	4		5.18	1		2.61		
	7.14	2		6.47	1		111.77	25		19.82	4		17.90	5	
	6.42	2		5.56	1		90.74	21		14.64	3		15.29	4	
育成林	0.72			0.91			21.03	4		5.18	1		2.61		
				(2.05)									(1.73)		
育成林								1							
								1							
立木地															
総数	369.10	28		152.13	13		149.15	23		189.85	28		103.28	19	
	132.65	17		40.44	5		85.11	13		11.63	2		61.65	13	
	236.45	11		111.69	7		64.04	9		178.22	26		41.63	6	
育成林	12.09	1		3.56						4.25	1				
	4.84			2.30						2.97	1				
	7.25			1.26						1.28					
天然林															
育成林															
天然林	357.01	27		148.57	12		149.15	23		185.60	27		103.28	19	
	127.81	17		38.14	5		85.11	13		8.66	1		61.65	13	
	229.20	10		110.43	7		64.04	9		176.94	26		41.63	6	
竹林															
無立木地															

注：1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分については、本表の集計には含まれません。  
 2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。  
 3 ( ) は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

区分	20 齡級			21 齡級以上		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	87.78	16		3,606.82	595	4
	総数	87.78	16	3,606.82	595	4
	針	44.17	9	1,063.51	147	
広	43.61	7	2,543.31	448	3	
総数	19.21	6		136.07	30	
	針	18.93	5	108.38	25	
	広	0.28		27.69	5	
人工林	19.21	5		136.07	30	
	針	18.93	5	108.38	25	
	広	0.28		27.69	5	
育複層林	(1.40)					
	総数					
	針					
広						
総数	68.57	11		3,470.75	565	3
	針	25.24	4	955.13	122	
	広	43.33	7	2,515.62	443	3
天然林	12.29	2		28.27	7	
	針	6.14	1	2.83	1	
	広	6.15	1	25.44	7	
育複層林						
	針					
	広					
天然生林	56.28	9		3,442.48	558	3
	針	19.10	3	952.30	122	
	広	37.18	6	2,490.18	436	3
竹林						
無立木地						

注：1 人工林及び天然林で点生木の林分については、本表の集計には含まれません。  
2 竹林の集計値については、総計欄には含まれません。  
3 ( ) は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

(2) 制限林普通林別森林資源表

単位：面積 ha、材積 m<sup>3</sup>、成長量 m<sup>3</sup>/年

区分	立木地										無立木地等					計					
	人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改訂地	植林地以外の地	計						
	育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	竹林	計												
制限林	面積	針	6,261.98	5.18	6,267.16	296.56	1,609.67	1,906.23													
		広	1,069.53		1,069.53	417.07	4,434.77	4,851.84													
	計		7,331.51	5.18	7,336.69	713.63	6,044.44	6,758.07												14,467.82	
制限林	材積	針	1,900.643	1,330	1,901.973	35,748	229,183	284,931												2,166,904	
		広	152,510		152,510	45,862	600,606	646,468												798,978	
	計		2,053,153	1,330	2,054,483	81,610	829,789	911,399												2,965,882	
制限林	成長量	針	33,808.9	55.2	33,864.1	544.2	1,097.7	1,641.9												35,506.0	
		広	3,001.6		3,001.6	749.8	5,438.5	6,188.3												9,189.9	
	計		36,810.5	55.2	36,865.7	1,294.0	6,536.2	7,830.2												44,695.9	
普通林	面積	針	429.82		429.82	2.19	5.33	7.52													
		広	29.56		29.56	4.43	27.91	32.34													
	計		459.38		459.38	6.62	33.24	39.86												103.52	602.76
普通林	材積	針	113,985		113,985	419	725	1,144													115,129
		広	3,895		3,895	203	2,748	2,951													6,846
	計		117,880		117,880	622	3,473	4,095													121,975
普通林	成長量	針	1,929.2		1,929.2	17.4	4.1	21.5													1,950.7
		広	63.4		63.4	12.0	34.6	46.6													110.0
	計		1,992.6		1,992.6	29.4	38.7	68.1													2,060.7
計	面積	針	6,691.80	5.18	6,696.98	298.75	1,615.00	1,913.75													8,610.73
		広	1,099.09		1,099.09	421.50	4,462.68	4,884.18													5,983.27
	計		7,790.89	5.18	7,796.07	720.25	6,077.68	6,797.93													14,594.00
計	材積	針	2,014,628	1,330	2,015,958	36,167	229,908	266,075													2,282,033
		広	156,405		156,405	46,065	603,354	649,419													805,824
	計		2,171,033	1,330	2,172,363	82,232	833,262	915,494													3,087,857
計	成長量	針	35,738.1	55.2	35,793.3	561.6	1,101.8	1,663.4													37,456.7
		広	3,065.0		3,065.0	761.8	5,473.1	6,234.9													9,299.9
	計		38,803.1	55.2	38,858.3	1,323.4	6,574.9	7,898.3													46,756.6

注：1 人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれません。  
 2 竹林の集計値については、立木地の計欄及び立木地と無立木地等の計欄には含まれません。







(4) 樹種別材積表

単位：材積 m<sup>3</sup>

樹種 林種	スギ	ヒノキ	アカマツ	クロマツ	その他 針葉樹
総数	936,722	951,780	313,570	47,787	32,174
人工林	913,806	941,255	114,473	30,159	16,265
天然林	22,916	10,525	199,097	17,628	15,909

樹種 林種	ブナ	ナラ類	カシ類	その他 広葉樹	計
総数	143,726	80,242	2,781	579,075	3,087,857
人工林	—	1	65	156,339	2,172,363
天然林	143,726	80,241	2,716	422,736	915,494

(5) 荒地等の面積

単位：面積 ha

区	分	荒地	危険地
総	数	12.90	3.07
市町村別内訳	広島市	9.39	1.41
	廿日市市	2.60	—
	熊野町	0.05	—
	安芸太田町	0.59	—
	北広島町	0.27	1.66

(6) 森林の被害

単位：面積 ha

種類	年度	松くい虫			カシノナガキクイムシ		
		27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度
総	数	0.92	6.31	—	0.41	0.70	0.23
市町村別内訳	広島市	0.01	1.07	—	—	—	0.01
	廿日市市	0.91	5.24	—	—	—	—
	安芸太田町	—	—	—	0.03	—	—
	北広島町	—	—	—	0.38	0.70	0.22

(7) 防火線等の整備状況

該当ありません。

### 3 林業の動向

#### (1) 保有山林規模別林家数

単位：戸

区 分		総 数	3ha未 満	3～5ha 未 満	5～10ha 未 満	10～50ha 未 満	50ha以上
広 島 市		5,241	3,247	837	669	446	42
大 竹 市		346	185	80	47	33	1
廿日市市		1,185	745	197	123	105	15
安芸郡	府 中 町	97	60	17	11	9	—
	海 田 町	52	38	6	6	2	—
	熊 野 町	218	178	26	10	4	—
	坂 町	11	8	2	1	—	—
山県郡	安芸太田町	939	363	204	182	169	21
	北広島町	2,996	980	652	682	660	22
総 数		11,085	5,804	2,021	1,731	1,428	101

注：農林水産省大臣官房統計部「2015年世界農林業センサス」による。

#### (2) 森林経営計画の認定状況

単位：面積 ha

区 分		総 数	公有林	私有林
広 島 市		2,177	139	2,038
大 竹 市		—	—	—
廿日市市		2,615	328	2,287
安芸郡	府 中 町	—	—	—
	海 田 町	—	—	—
	熊 野 町	—	—	—
	坂 町	—	—	—
山県郡	安芸太田町	7,814	2,347	5,467
	北広島町	8,794	3,130	5,664
総 数		21,400	5,944	15,456

注：広島県農林水産局林業課調べ。

(3) 森林組合及び生産森林組合の現況

ア 森林組合の構成

単位：員数 人、金額 千円、面積 ha

種別	組合名	管轄区域	組合員数	専従職員数	出資金額	組合員所有面積
森林組合	広島市森林組合	広島市(佐伯市、安佐北区白木町を除く)	6,161	11	—	16,455
	安芸北森林組合	広島市(安佐北区白木町)、安芸高田市、山県郡北広島町(旧芸北町を除く)	10,418	12	—	58,720
	佐伯森林組合	広島市(佐伯区)、大竹市、廿日市市、江田島市(旧江田島町を除く)	2,019	11	—	41,778
	太田川森林組合	山県郡安芸太田町、北広島町(旧芸北町)	3,017	17	—	24,799
生産森林組合	吉末生産森林組合	廿日市市	—	—	—	—
	湯来生産森林組合	広島市	17	—	—	38
	峠生産森林組合	〃	28	—	—	64
	川角古塚生産森林組合	〃	33	—	—	30
	皆草生産森林組合	〃	24	—	—	194
	鹿道生産森林組合	〃	—	—	—	—
	保井田生産森林組合	〃	34	—	—	42
	倉重生産森林組合	〃	84	—	—	29
	宇津生産森林組合	〃	195	—	—	62
	深川生産森林組合	〃	418	—	—	347
	小田生産森林組合	〃	75	—	—	25
	上原生産森林組合	〃	91	—	—	52
	桐原生産森林組合	〃	63	—	—	444
	亀山生産森林組合	〃	669	—	—	246
	上町屋生産森林組合	〃	102	—	—	183
	市川大寺生産森林組合	〃	140	—	—	138
	秋山生産森林組合	〃	190	—	—	209
	市川生産森林組合	〃	161	—	—	100
	三田生産森林組合	〃	339	—	—	511
	上小深川生産森林組合	〃	41	—	—	133
井原生産森林組合	〃	408	—	—	56	
山辺生産森林組合	〃	17	—	—	91	
志屋生産森林組合	〃	246	—	—	69	
北谷生産森林組合	〃	—	—	—	—	
矢田ヶ原生産森林組合	〃	20	—	—	68	

種別	組合名	管轄区域	組合員数	専従職員数	出資金額	組合員所有面積
生産森林組合	国原生産森林組合	広島市	24	—	—	2
	大平山生産森林組合	安芸太田町	80	—	—	21
	猪山生産森林組合	〃	74	—	—	557
	川戸生産森林組合	北広島町	251	—	—	164
	本地生産森林組合	〃	359	—	—	163
	岩戸生産森林組合	〃	88	—	—	144
	女鹿原生産森林組合	〃	32	—	—	71
	栄生産森林組合	〃	24	—	—	24
	宮松生産森林組合	〃	49	—	—	54
	唐代生産森林組合	〃	44	—	—	45
	鶉木生産森林組合	〃	23	—	—	125
	志路原生産森林組合	〃	101	—	—	128
	小原生産森林組合	〃	33	—	—	286
	才乙生産森林組合	〃	50	—	—	141
	南門原生産森林組合	〃	—	—	—	—
	移原生産森林組合	〃	26	—	—	51
	東樽床生産森林組合	〃	33	—	—	24
	大谷生産森林組合	〃	11	—	—	90
	土橋生産森林組合	〃	21	—	—	62
	細見生産森林組合	〃	74	—	—	79
	高野生産森林組合	〃	21	—	—	158
	米沢生産森林組合	〃	24	—	—	19
	瀬山生産森林組合	〃	28	—	—	24
	奥原生産森林組合	〃	25	—	—	44
	移木生産森林組合	〃	17	—	—	21
	琴谷生産森林組合	〃	41	—	—	43
	大暮生産森林組合	〃	53	—	—	275
	草安生産森林組合	〃	20	—	—	35
	溝口生産森林組合	〃	104	—	—	186
	奥中原生産森林組合	〃	—	—	—	—
大利原生産森林組合	〃	11	—	—	17	
苧屋形生産森林組合	〃	21	—	—	62	
新庄生産森林組合	〃	170	—	—	18	

注：1 森林組合要覧平成29年度版（平成28事業年度）  
2 生産森林組合の組合員所有森林面積は、組合所有森林面積。

イ 森林組合の事業内容

単位：金額 千円

事業の種類	取扱高	事業の内容		該当森林組合	
		種 別	金 額		
販売部門	販売事業	木材	一般用材	74,179	広島を除く3森林組合
			パルプ材その他	11,671	広島を除く3森林組合
		生しいたけ	—		
			その他	15,367	佐伯を除く3森林組合
	林産事業	木材	一般用材	114,491	全て
			パルプ材その他	3,752	広島市
		その他	5,113	太田川	
	林産事業 (受託加工のみ)	木材	一般用材	43,268	佐伯、太田川
			パルプ材その他	—	
		その他	—		
加工部門	加工製造事業	製材品	6,732	広島市を除く3森林組合	
		その他	67,729		
	加工製造事業 (受託加工のみ)	製材品	3,723	佐伯	
		その他	—		
森林整備部門	購買事業	山行苗木	14,125	佐伯を除く3森林組合	
		肥料	34	太田川を除く3森林組合	
		林業用機械器具	13,036	全て	
		林業用薬剤	712	全て	
		しいたけ等生産資材	6,982	全て	
		その他	53,281	全て	
	造林造成事業	造林	新植	25,010	全て
			その他	—	
		保育	456,480	全て	
		治山	—		
		林道	38,108	太田川	
			その他	260,500	佐伯、太田川
	うち 受託手数料	造林	新植	2,286	広島市、太田川、安芸北
			その他	—	
		保育	27,190	広島市、太田川、安芸北	
		林道	—		
		その他	26,807	佐伯	
	利用及び 福利厚生事業	588,674	病虫害駆除	4,391	安芸を除く3森林組合
			調査収入	29,814	全て
			物的施設	54,880	広島市、太田川
			林業機械利用料	43,924	全て
			造林補助金取扱手数料	995	安芸北、佐伯
			保険取扱手数料	686	太田川を除く全て
支援交付金手数料等			1,530	広島市	
その他	452,454	全て			
森林整備部門	1,544	期末貸 出在高	中金資金	—	
			公庫資金	1,460	太田川
			自己資金	—	
		受取 息	中金資金	—	
			公庫資金	73	太田川
			自己資金	—	
		手数料	中金資金	—	
			公庫資金	11	太田川
		その他資金	—		
		雑収入	—		

注：森林組合要覧平成29年度版（平成28事業年度）

#### (4) 林業事業体等の現況

単位：事業体数

区 分	育林業	素 材 生産業	特用林 産 物 生産業	林 業 サ－ビ ス 業	木材・ 木製品 製造業	木材卸売業、	
						製造業	うち素材 市売市場
広 島 市	4	—	—	5	27	63	—
大 竹 市	—	—	1	—	4	2	—
廿日市市	3	—	—	3	12	33	—
安芸郡	府 中 町	—	—	—	—	—	—
	海 田 町	—	—	—	—	—	—
	熊 野 町	—	—	—	—	—	—
	坂 町	—	—	—	—	—	—
山県郡	安芸太田町	4	1	—	1	8	1
	北広島町	17	2	—	2	14	1
総 数	28	3	1	11	52	120	1

- 注：1 平成24年経済センサスによる。  
 2 木材卸売業は、（一社）広島県木材組合連合会HPから抽出。  
 3 うち素材市売市場は、広島県農林水産局林業課調べ。

#### (5) 林業労働力の概況

林業労働力の推移

区 分	総数	林業従事 29日以下	30～59	60～99	100～149	150～199	200以上	
広 島 市	503	379	61	15	8	2	38	
大 竹 市	12	9	1	2	—	—	—	
廿日市市	119	106	5	1	—	1	6	
安芸郡	府 中 町	—	—	—	—	—	—	
	海 田 町	—	—	—	—	—	—	
	熊 野 町	—	—	—	—	—	—	
	坂 町	—	—	—	—	—	—	
山県郡	安芸太田町	235	192	10	1	5	3	24
	北広島町	1,016	935	57	11	1	6	6
総 数	1,885	1,621	134	30	14	12	74	

- 注：1 農林水産省大臣官房統計部「2015年農林業センサス」による。  
 2 林業に従事した林家の従事状態別世帯員数を記載している。

(6) 林業機械化の概況

〈民有林における林業機械の保有台数〉

機械種名		単 位	会 社	森林組合	そ の 他 森林組合	個人・ その他	合 計
索道	索道重力式	セット	—	—	—	—	—
	索道動力式	セット	9	4	—	2	15
集材機	小型集材機	台	5	—	—	—	5
	大型集材機	台	17	6	—	6	29
モノケーブル		台	—	—	—	—	—
リモコンウィンチ		台	3	—	—	—	3
自走式搬車		台	5	—	—	3	8
モノレール		台	—	—	—	—	—
小型運材車	動力20PS未満	台	3	3	—	3	9
	動力20PS以上	台	18	2	—	1	21
ホイールタイプトラクタ		台	—	—	—	—	—
クローラタイプトラクタ		台	1	2	—	—	3
育林用トラクタ		台	—	—	—	—	—
フォークリフト		台	4	1	—	16	21
フォークローダ		台	—	—	—	—	—
クレーン	運材機能なし	台	—	—	—	—	—
	運材機能あり	台	5	1	—	7	13
グラップル	運材機能なし	台	9	6	—	8	23
	運材機能あり	台	1	—	—	2	3
トラクタショベル		台	—	—	—	—	—
ショベル系掘削機械		台	25	2	—	7	34
チェーンソー		台	120	30	—	32	182
チェーンソーリモコン装置		台	9	—	—	—	9
刈払機		台	91	22	—	18	131
植穴堀機		台	—	—	—	3	3
動力枝打機	自動木登り式	台	9	—	—	6	15
	記以外のもの	台	6	—	—	—	6
苗畑用トラクタ		台	—	—	—	—	—
樹木粉碎器		台	1	—	—	3	4
フェラーバンチャ		台	—	—	—	—	—
スキッド		台	—	—	—	—	—
プロセッサ		台	4	—	—	2	6
ハーベスタ		台	4	1	—	1	6
フォワーダ		台	2	—	—	2	4
タワーヤーダ		台	—	—	—	1	1
スイングヤーダ		台	3	—	—	2	5
その他の高性能林業機械		台	6	2	—	1	9
グラップルソー		台	2	1	—	—	3

注：広島県農林水産局林業課調べ。

## (7) 作業路網等の整備の概況

### ア 国有林の現況

単位：延長 m

区 分	林道延長	林業専用道延長	作業道延長	計	
広島市	47,912	—	3,975	51,887	
廿日市市	36,637	700	—	37,337	
山県郡	安芸太田町	10,597	730	—	11,327
総 数	—	—	—	100,551	

注：作業道には森林作業道は含みません。

### イ 民有林の現況

単位：延長 m

区 分	路 線 数	延 長	
広島市	180	197,365	
大竹市	1	2,300	
廿日市市	261	283,242	
安芸郡	府中町	—	
	海田町	—	
	熊野町	—	
	坂町	—	
山県郡	安芸太田町	172	279,717
	北広島町	293	338,297
総 数	907	1,100,921	

注：広島県農林水産局林業課調べ。

## (8) 国有林と関係のある民有林林道の開設計画

該当ありません。



## 4 前期計画の実行状況

### (1) 伐採立木材積

計画と実行状況

単位：材積 千m<sup>3</sup>、実行歩合 %

区 分	伐 採 立 木 材 積								
	計 画			実 行			実 行 歩 合		
	主 伐	間 伐	総 数	主 伐	間 伐	総 数	主 伐	間 伐	総 数
総 数	106	261	(15) 366	3	63	(3) 66	3	24	(20) 18
針 葉 樹	100	261	361	3	63	66	3	24	18
広 葉 樹	6	—	6	0	—	0	0	—	0

注：1 計画欄は、前半5ヶ年に相当する数値。

2 実行欄は、平成26～29年度実績と平成30年度見込量の合計。

3 ( )は、地域管理経営計画等において定めるあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量で外書。

4 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

### (2) 人工造林・天然更新別面積

計画と実行状況

単位：面積 ha、実行歩合 %

総 数			人 工 造 林			天 然 更 新		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
99	4	4	99	4	4	—	—	—

注：(1)の注に同じ。

### (3) 林道の開設又は拡張の数量

計画と実行状況

単位：延長 km、箇所数 箇所、実行歩合 %

区 分	開 設 延 長			拡 張 箇 所 数		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
基幹路網	6.0	1.4	23	—	17	皆増
うち林業専用道	6.0	1.4	23	—	—	—

注：(1)の注に同じ。

#### (4) 保安施設の数量

ア 保安林の指定又は解除の面積

単位：面積 ha、実行歩合 %

種 類	指 定			解 除		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
水源かん養保安林	365	128	—	4	4	—

注：計画欄は総量（10年分）、実行欄は平成26～29年度実績及び30年度見込量。

イ 保安林の指定施業要件の変更

単位：面積 ha、実行歩合 %

種 類	択伐率の変更面積			間伐率の変更面積			植栽の変更面積		
	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合	計画	実行	実行歩合
水源かん養保安林	807	1,019	126	807	1,019	126	807	1,019	126
土砂流出防備保安林	1,147	230	20	1,147	230	20	1,147	230	20
風 致 保 安 林	2,379	—	—	2,379	—	—	2,379	—	—
保 健 保 安 林	538	—	—	538	—	—	538	—	—

注：計画欄は総量（10年分）、実行欄は平成26～29年度実績及び30年度見込量。

ウ 保安施設地区の指定

該当ありません。

エ 保安施設事業

計画と実行状況

単位：保全施設 地区、実行歩合 %

区 分	計 画	実 行	実 行 歩 合
保 全 施 設	20	1	5

注：(1)の注に同じ。

## 5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）

### (1) 森林より森林以外への異動

単位：面積 ha

農用地	ゴルフ場等 レジャー 施設用地	住宅、別荘、 工場等建物敷地 及びその附帯地	採石採土地	その他	合計
—	—	—	—	7.16	7.16

### (2) 森林以外より森林への異動

単位：面積 ha

農用地	ゴルフ場等 レジャー 施設用地	住宅、別荘、 工場等建物敷地 及びその附帯地	採石採土地	その他	合計
—	—	—	—	0.03	0.03

## 6 森林資源の推移

### (1) 分期別伐採立木材積等

単位：材積 千m<sup>3</sup>、面積 ha、延長 km

分 期		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
伐採立木材積	総 数	総 数	(15) 286	134	239	233	138	109	117	105
		針葉樹	284	127	239	233	138	109	117	105
		広葉樹	2	7	—	—	—	—	—	—
	主 伐	総 数	84	28	148	150	97	84	90	85
		針葉樹	81	22	148	150	97	84	90	85
		広葉樹	2	7	—	—	—	—	—	—
	間 伐	総 数	203	105	91	83	41	25	27	20
		針葉樹	203	105	91	83	41	25	27	20
		広葉樹	—	—	—	—	—	—	—	—
造林面積	総 数	105	264	141	160	224	266	274	274	
	人工造林	105	132	141	160	224	266	274	274	
	天然更新	—	132	—	—	—	—	—	—	
林道開設延長		4.5	2.5	—	—	—	—	—	—	

注1 ( ) は、地域管理経営計画等において定めるあらかじめ伐採箇所が特定できない臨時伐採量で外書。

2 四捨五入により総数と内訳が合わないことがある。

(2) 分期別期首資源表

区	分	面					
		総 数	1・2齡級	3・4齡級	5・6齡級	7・8齡級	9・10齡級
第Ⅰ分期	総 数	14,593	6	109	350	954	2,309
	人工林	7,796	6	84	264	614	2,175
	育成単層林	7,791	5	80	264	614	2,175
	育成複層林	5	1	4			
	天然林	6,797		25	86	340	134
	天然生林	720		16	37	33	37
第Ⅱ分期	総 数	14,329	109	47	202	804	1,144
	人工林	7,532	109	47	131	464	1,029
	育成単層林	7,527	109	46	127	464	1,029
	育成複層林	5		1	4		
	天然林	6,797			71	340	115
	天然生林	720			28	39	29
第Ⅲ分期	総 数	14,335	237	6	109	350	954
	人工林	7,538	237	6	84	264	614
	育成単層林	7,453	157	5	80	264	614
	育成複層林	85	80	1	4		
	天然林	6,797			25	86	340
	天然生林	720			16	37	33
第Ⅳ分期	総 数	13,914	273	109	47	202	804
	人工林	7,117	273	109	47	131	464
	育成単層林	6,933	94	109	46	127	464
	育成複層林	184	179		1	4	
	天然林	6,797				71	340
	天然生林	720				28	39
第Ⅴ分期	総 数	13,565	301	237	6	109	350
	人工林	6,768	301	237	6	84	264
	育成単層林	6,508	126	157	5	80	264
	育成複層林	260	175	80	1	4	
	天然林	6,797				25	86
	天然生林	720				16	37
第Ⅵ分期	総 数	13,463	384	273	109	47	202
	人工林	6,666	384	273	109	47	131
	育成単層林	6,330	232	94	109	46	127
	育成複層林	336	152	179		1	4
	天然林	6,797					71
	天然生林	720					28
第Ⅶ分期	総 数	13,455	490	301	237	6	109
	人工林	6,658	490	301	237	6	84
	育成単層林	6,246	338	126	157	5	80
	育成複層林	412	152	175	80	1	4
	天然林	6,797					25
	天然生林	720					16
第Ⅷ分期	総 数	13,455	540	384	273	109	47
	人工林	6,658	540	384	273	109	47
	育成単層林	6,170	388	232	94	109	46
	育成複層林	488	152	152	179		1
	天然林	6,797					
	天然生林	720					
第Ⅸ分期	総 数	13,455	548	490	301	237	6
	人工林	6,658	548	490	301	237	6
	育成単層林	6,094	396	338	126	157	5
	育成複層林	564	152	152	175	80	1
	天然林	6,797					
	天然生林	720					

注1：表中「\*」は、育成複層林の上木の齡級配置を表します。

単位：面積 ha、材積 千m<sup>3</sup>

積						材 積
11・12齡級	13・14齡級	15・16齡級	17・18齡級	19・20齡級	21齡級以上	
4,049	1,996	536	471	208	3,609	3,088
3,173	1,163	14	132	37	138	2,173
3,173	1,163	14	132	37	138	2,172
			*	*		1
876	833	522	339	171	3,471	915
495	41	16	4	12	28	82
381	792	506	335	159	3,443	833
3,213	3,121	1,292	404	310	3,687	3,133
2,838	2,457	194	102	17	148	2,133
2,838	2,457	194	102	17	148	2,131
			*	*	*	2
375	664	1,098	302	293	3,539	1,000
139	384	52	4	4	40	143
236	280	1,046	298	289	3,499	857
2,281	3,842	1,799	533	443	3,785	3,234
2,147	2,966	966	11	104	143	2,209
2,147	2,966	966	11	104	143	2,194
	*	*	*	*	*	15
134	876	833	522	339	3,642	1,025
37	495	41	16	4	40	150
97	381	792	506	335	3,602	875
1,126	3,126	2,593	1,283	378	3,977	3,199
1,011	2,751	1,929	185	76	145	2,150
1,011	2,751	1,929	185	76	145	2,117
	*	*	*	*	*	33
115	375	664	1,098	302	3,832	1,049
29	139	384	52	4	44	155
86	236	280	1,046	298	3,788	894
933	2,232	3,323	1,363	531	4,184	3,150
593	2,098	2,447	530	9	203	2,080
593	2,098	2,447	530	9	203	2,030
	*	*	*	*	*	50
340	134	876	833	522	3,981	1,070
33	37	495	41	16	44	161
307	97	381	792	506	3,937	909
764	1,069	2,983	2,067	1,228	4,341	3,144
424	954	2,608	1,403	130	207	2,057
424	954	2,608	1,403	130	207	1,985
	*	*	*	*	*	72
340	115	375	664	1,098	4,134	1,087
39	29	139	384	52	48	165
301	86	236	280	1,046	4,086	922
350	865	2,126	3,010	1,250	4,715	3,138
264	525	1,992	2,134	417	212	2,040
264	525	1,992	2,134	417	212	1,942
	*	*	*	*	*	98
86	340	134	876	833	4,503	1,098
37	33	37	495	41	60	163
49	307	97	381	792	4,443	935
202	721	1,012	2,723	1,887	5,561	3,128
131	381	897	2,348	1,223	329	2,016
127	381	897	2,348	1,223	329	1,891
4	*	*	*	*	*	125
71	340	115	375	664	5,232	1,112
28	39	29	139	384	100	166
43	301	86	236	280	5,132	946
109	309	807	2,019	2,746	5,887	3,120
84	223	467	1,885	1,870	551	2,000
80	223	467	1,885	1,870	551	1,845
4	*	*	*	*	*	155
25	86	340	134	876	5,336	1,120
16	37	33	37	495	101	165
9	49	307	97	381	5,235	955